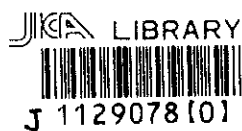


第三国集団研修終了時評価報告書 ～フィリピン共和国技術教育教材作成～

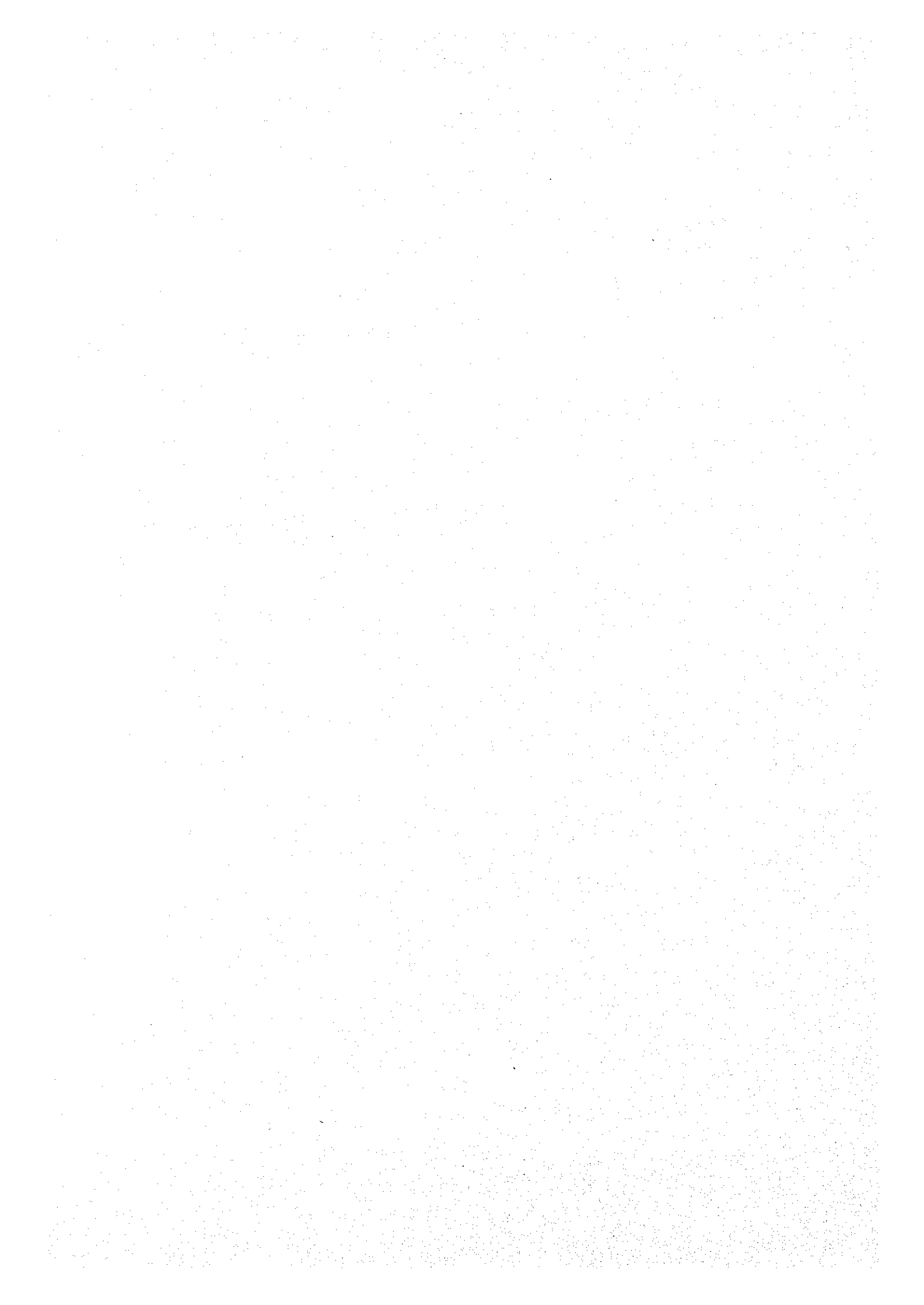
平成7年7月
(1995年7月)



国際協力事業団
研修事業部

研一
J R
95-009

ARY



第三国集団研修終了時評価報告書
～フィリピン共和国技術教育教材作成～

平成7年7月
(1995年7月)

国際協力事業団
研修事業部



1129078 (0)

序 文

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤を持つ同一の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国から研修員を受け入れ、より現地事情に適合した適正技術、知識の移転を図るとともに、これにより開発途上国間技術協力(T C D C : Technical Cooperation among Developing Countries)の推進に寄与することを目的としています。

フィリピン共和国第三国集団研修「技術教育教材作成」は、途上国の人材開発に必要とされる技術教育教材の開発を促進することを目的に、アジア・大洋州諸国において技術者教育に携わる者に対し、効率的かつ教育効果の高い技術教育計画の策定や、技術教育教材作成のためのコンピューター活用法を習得する機会を提供しています。

本研修は、フィリピンに本拠地を置く国際機関のひとつであるコロンボプランスタッフ・カレッジ(C P S C : Colombo Plan Staff College)にて実施され、平成3年度のコース開始以来、平成6年度までに4回のコースが開催されております。

本報告書は、同研修を総合的に評価すべく、当事業団が派遣した終了時評価調査団の調査結果を取りまとめたものです。

本調査の実施に際し、ご協力いただいた在フィリピン日本大使館、外務省、文部省およびフィリピン国関係諸機関に対し、深い謝意を表する次第です。

平成7年7月

国際協力事業団
研修事業部長 庵原宏義



▶ CPSC前にて
左から、植松長期派遣専門家、
新納団長、根本団員、高橋団員

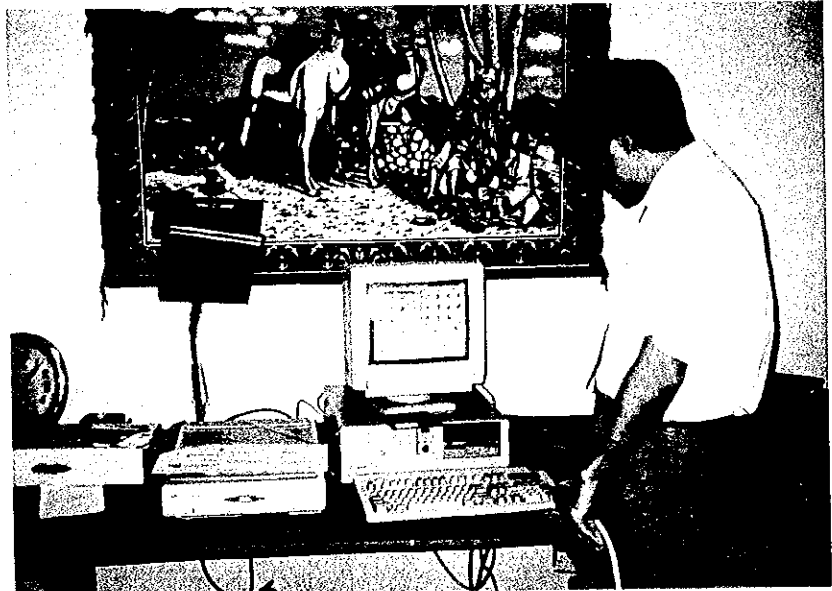


▶ CPSCとの協議
左手前はCPSCの Basu 学長



▶ 研修風景
日本人短期派遣専門家による
講義

▶
研修で使用されているコン
ピューターシステム
(1988年にわが国が機材供与)



▶
研修風景
(実習)



▶
ミニッツ署名



目 次

序文	
写真	
第1章 終了時評価チームの派遣	1
1-1 評価チーム派遣の経緯と目的	1
1-2 評価チームの構成	1
1-3 評価チームの日程	1
1-4 終了時評価の方法	2
1-5 主要面談者	3
第2章 研修コース概要	4
2-1 コース概要	4
2-2 R/D協力期間	5
2-3 コース開催実績	5
2-4 過去4年間の研修員受入実績	5
2-5 短期派遣専門家の実績	6
2-6 カウンターパート研修員受入実績	6
第3章 研修コース設定および運営の経緯	7
3-1 コース設定の経緯	7
3-2 コース運営の経緯	7
第4章 評価結果	8
4-1 目標達成度	8
4-2 研修効果	10
4-3 研修実施体制	12
4-4 自立発展の見通し	18
第5章 総括	19
5-1 評価の総括	19
5-2 提言	19
5-3 その他	21

資料

1	ロジカルフレームワーク	25
2	終了時評価シート	26
3	ミニッツ（写し）	30
4	加盟国拠出金額一覧（CPSCアニュアルレポートより）	71

第1章 終了時評価チームの派遣

1-1 評価チーム派遣の経緯と目的

コロンボプランスタッフ・カレッジ（C P S C : Colombo Plan Staff College、事務局マニラ）は、コロンボプラン加盟国の支持により同プラン加盟国の技術者教育の水準向上のため、1974年にシンガポールに設立された国際機関である。現在は本拠をフィリピンに移し、マニラ郊外PasigにあるUniversity of Lifeで活動している。

わが国はこれまで、C P S Cの運営資金の負担（1974年～）のほか、専門家の派遣（1976年～）および単独機材の供与（1988年：ミニコンピューター、コンピューターシステム）など、J I C Aベースの技術協力によりC P S Cの活動を支援してきた。

C P S Cでは、わが国が供与したコンピューターシステムを利用して独自に研修を実施してきたが、この研修をコロンボプラン加盟国全域に普及させ、途上国の技術者育成に必要とされる技術教育教材の開発を促進するため、わが国に第三国研修の実施を要請した。

この要請に基づき、わが国は事前調査を実施し、その結果、5年間にわたる研修の実施に関する協力について1991年6月にR/Dを署名・交換した。

本調査団は、過去4回実施した協力について、当初計画に照らして研修の活動実績、管理運営状況および研修効果などについて評価を行い、目標達成度の判定を主目的とし、さらに評価結果から教訓および提言などを導き出し、今後の協力のあり方や実施方法の改善に資するために、1994年11月29日から12月8日までフィリピンに派遣されることとなったものである。

1-2 評価チームの構成

団長・総括	新納	宏	J I C A研修事業部管理課課長代理
研修・評価	根本	博	文部省初等中等教育局中学校課教科調査官
運営・評価	高橋	政俊	J I C A研修事業部研修第一課担当

1-3 評価チームの日程

現地での調査日程は以下に示すとおりである。

日順	月/日(曜日)	訪問先	調査・協議内容
1	11/29(火)	JICA事務所	成田発→マニラ着 午後 JICA事務所と打合せ、大使館表敬
2	30(水)	CPSC	午前 施設見学、研修実施状況視察 午後 実施機関と協議(調査目的・概要、実施機関概要)

日順	月/日(曜日)	訪問先	調査・協議内容
3	12/1(木)	午前 NEDA 午後 CPSC	午前・午後 フィリピン側の本研修に対する支援等ニーズ、目標達成度、計画妥当性、研修実施体制について実施機関と協議
4	2(金)	CPSC	午前 収集資料の分析 午後 分析結果について実施機関と協議 短期派遣専門家と協議
5	3(土)	ホテル内会議室	ミニッツ案協議
6	4(日)	ホテル内会議室	ミニッツ案作成
7	5(月)	CPSC	午前 参加研修員とのミーティング 午後 実施機関とミニッツ案協議
8	6(火)	CPSC	午前 実施機関とミニッツ案最終協議 午後 関連施設視察(ドンボスコテクニカルスクール)
9	7(水)	CPSC	午前 ミニッツ署名 午後 関連施設視察(フィリピンサイエンスハイスクールナショナルコンピューターセンター)
10	8(木)	JICA事務所 大使館	調査結果報告 マニラ発→成田着

1-4 終了時評価の方法

調査は、ロジカルフレームワークの考えを取り入れ策定された「研修員受入事業案件の評価ガイドライン」を参考に、第三国研修の評価に必要な事項を加えて行うもので、以下の3段階に分けられる。

- (1) 国内準備作業
 - ・コースレポートの分析
 - ・派遣専門家報告書の分析
 - ・クエスチョネア送付(実施機関および研修員宛)
- (2) 現地調査
 - ・クエスチョネア回収
 - ・面談調査および要望のヒアリング(関係機関、参加研修員)
 - ・研修実施機関の自己評価および要望のヒアリング
 - ・評価結果確定、ミニッツ署名
- (3) 報告書作成
 - ・調査評価報告書の作成

1-5 主要面談者

(1) CPSC (コロンボプランスタッフ・カレッジ)

Dr. C K Basu	Director
Ms. Emma P. Tan	External Relations and Development Officer
Prof. M. Radhakrishna	Lecturer
Prof. Meena Kumari	Lecturer
Engr. Farida Javed	CPSC Core Faculty Member and Co-Coodinator of the Course
植松 卓史	CPSC Faculty Member (長期派遣専門家)
牧野 亮哉	Lecturer (短期派遣専門家)
林 徳治	Lecturer (短期派遣専門家)
宮田 仁	Lecturer (短期派遣専門家)

(2) フィリピン国家経済開発庁

(N E D A : National Economic & Development Authority)

Ms. Carmencita J. Guiyab	Executive Officer
	Special Committee on Scholarships
Ms. Aurora T. Collantes	Desk Officer
	Special Committee on Scholarships

(3) 在フィリピン日本国大使館

田村 桂介	三等書記官
-------	-------

(4) J I C A フィリピン事務所

橋本 明彦	所長
井上 鈴鹿	所員

第2章 研修コース概要

2-1 コース概要

(1) コース名

フィリピン共和国第三国集団研修「技術教育教材作成」
(The Regional Training Course on Computer-Based Instructional Materials Development)

(2) 研修実施機関

C P S C (コロンボプランスタッフカレッジ、所長: Dr. C K Basu)

(3) コースの目的

アジア・大洋州地域の技術者教育にかかわる教員あるいは行政官に対し、コンピューターによる技術者教育教材の設計/開発に必要なとされる知識およびスキルを得るための機会を提供する。

(4) 参加資格要件(1993年以降)

- ① 各国政府窓口機関推薦の者
- ② 技術者教育の学士または修士あるいは同等の学力を有する者
- ③ 技術者教育技術、カリキュラム作成、またはその教材作成に従事している者
- ④ 同分野で3年以上の実務経験を有する者
- ⑤ MS-DOS系コンピューターの基本操作を理解している者
- ⑥ 所属先機関で技術者教育教材開発に関与している者
- ⑦ 割当国の国民であること
- ⑧ 英語が堪能であり心身ともに健康な者

(5) 割当国・定員

① 割当国

バングラデシュ、ブータン、フィジー、インド、インドネシア、イラン、マレーシア、ネパール、大韓民国(韓国)、パキスタン、シンガポール、パプア・ニューギニア、スリ・ランカ、タイ、フィリピン、計15カ国

*1994(平成6)年度よりミャンマーが割当国として追加された。

② 定員

15名(周辺国:14名 実施国:1名)

2-2. R/D協力期間

1991年6月28日 第1回～第5回 [1991(平成3)年度～1995(平成7)年度コース]

2-3 コース開催実績

第1回コース 1991年10月7日～10月31日

第2回コース 1992年10月5日～10月30日

第3回コース 1993年10月18日～11月12日

第4回コース 1994年11月21日～12月16日

2-4 過去4年間の研修員受入実績

応募人数 75名

受入人数 53名

*各コースおよび割当国ごとの受入人数は表1のとおりである。

表1 研修員応募、受入実績

A: 応募人数 B: 参加人数

国名	年度		1991		1992		1993		1994	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
バングラデシュ	5	3	2	1	1	1	0	0	2	1
ブータン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フィジー	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
インド	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
インドネシア	11	3	0	0	1	1	1	1	9	1
イラ	5	4	2	1	1	1	1	1	1	1
大韓民国	3	3	1	1	0	0	1	1	1	1
マレーシア	8	4	1	1	1	1	2	1	4	1
ネパール	6	4	1	1	1	1	2	1	2	1
パキスタン	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
パプア・ニューギニア	3	3	1	1	0	0	1	1	1	1
シンガポール	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
スリ・ランカ	7	4	1	1	1	1	1	1	4	1
タイ	6	4	2	1	1	1	2	1	1	1
ミャンマー	1	1	—	—	—	—	—	—	1	1
周辺国小計	71	49	15	12	11	11	15	12	30	14
フィリピン	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	75	53	16	13	12	12	16	13	31	15

2-5 短期派遣専門家の実績

第2回コース コンピューター言語訓練

宇都宮大学教育学部助教授 石川 賢 (9/25~10/20)

第3回コース マルチメディアによる教材開発

京都教育大学教育学部助教授 林 徳治 (10/21~11/4)

兵庫教育大学助手 西村 治彦 (10/12~10/31)

第4回コース マルチメディアによる教材開発

福井大学教授 牧野 亮哉 (11/15~12/18)

京都教育大学教育学部助教授 林 徳治 (11/22~12/12)

京都教育大学助手 宮田 仁 (12/3~12/18)

2-6 カウンターパート研修員受入実績

氏名：Mr. Eric Zulaybar (C P S C ラボラトリースタッフ)

課目：マルチメディアによる教材開発

期間：1994. 3. 28~1994. 6. 27

第3章 研修コース設定および運営の経緯

3-1 コース設定の経緯

本件第三国集団研修の実施機関であるCPSC（コロンボプランスタッフ・カレッジ）は、前述のようにコロンボプラン加盟国の技術者の水準向上のため設立された、技術者教育を目的とした国際機関である。

同機関はその設立以来、技術者教育に関する研修の実施、研究会議の開催、調査研究活動および加盟国への情報提供などの活動を通じて、アジア・大洋州地域の技術者育成の促進に貢献してきた。

わが国はコロンボプラン加盟国として、設立時より同機関の活動を支援してきた。1974年より拠出金を負担し、1976年からは長期専門家をCPSCのファカルティーメンバーとして派遣してきた。また、1988年にはコンピューターシステムを供与した。

CPSCでは、この供与されたコンピューターを主に同機関が実施する研修において利用していたが、このコンピューターシステムをさらに積極的に活用すべく、コンピューターを利用した技術者教育教材に関する研修の実施について、わが国に協力を要請してきた。

わが国はこの要請に基づき、研修計画概要および実施機関の研修実施体制について事前調査を実施し、この結果、5年間のコース実施に関する協力について1991年6月にR/Dを署名・交換した。

3-2 コース運営の経緯

CPSCで実施される研修コースは、ファカルティーメンバーと呼ばれるCPSCの専門家らによって運営が進められる。

本コースについてもコンピューターを専門とするファカルティーメンバーが配置され、同メンバーにより運営されることとなった。

また、本コースのカリキュラム、経費、講師の配置については、CPSCのファカルティーメンバーで構成されるアカデミックボード（4-3-(3)-②-c、参照）において審議され、決められる。

第4章 評価結果

4-1 目標達成度

(1) コースニーズの継続性

① コース設定時に把握されたニーズ

本コースは、コロンボプラン加盟国17カ国において同様に認められる技術者教育のニーズに基づいて実施された。

ただし、当時の政治状況からアフガニスタンおよびミャンマーの両国は割当国から外されることとなった。

② コースニーズの評価

割当国からの参加者から判断した場合、ブータンを除くすべての国々から参加があり、これらの国々については本研修に対するコースニーズが存在しているといえる（表2参照）。

表2 研修員応募率および定員充足率 (単位：%)

項目 / コース	第1回コース (1991年度)	第2回コース (1992年度)	第3回コース (1993年度)	第4回コース (1994年度)	平均値
応募率(応募者数/定員)	107.0	80.0	107.0	206.7	125.2
定員充足率(研修員数/定員)	86.7	80.0	86.7	100.0	88.4

参加各国の研修ニーズについては、実施機関のデスクオフィサー（通常ファカルティメンバー1人につき2カ国を担当）が各国出張の際に、参加研修員の所属先などを訪問し、ニーズ調査を実施している。

また、数年に1回、コンサルタント（カナダ、オーストラリアなど）による研修ニーズ調査も実施されている。

この調査結果によると、割当国における本研修に対するニーズの内容はさまざまであり、これをそれぞれの技術レベルから判断すると次のとおり分類できる。

第1グループ（実用レベル）：シンガポール、大韓民国、マレーシア

第2グループ（導入レベル）：インド、タイ、インドネシア、フィリピン、イラン

第3グループ（研究レベル）：フィジー、パプア・ニューギニア、スリ・ランカ

第4グループ（検討レベル）：バングラデシュ、パキスタン、ブータン、ネパール

③ コースニーズの変化および対応

コンピューター分野における教育関連のソフトウェア開発は、近年その技術革新がめざましく、このためCPSC側ではこれに対応すべくマルチメディア等最新技術を

研修カリキュラムに取り入れる努力を続けてきた。しかし、わが国が供与したコンピューターは、すでに最新技術には対応できない機種であったため、CPSC側ではコンピューターのグレードアップならびに教材ソフトの手直しによってこれに対応してきた。

また、CPSCは研修終了時に参加研修員に対しクエスチョネアを実施し、割当国におけるコースニーズの把握に努めてきた。その結果はアカデミックボード（4-3-(3)-②-c. 参照）で審議され、次回のコースカリキュラムに反映されている。

(2) レベルアップの程度

① 目標指標

R/Dにおける本コースの到達目標は次のとおりである。

- a. 技術教育の指導教材に適切なスクリーンフォーマットおよびレイアウトの設計ができる。
- b. 特定技術における指導教程、構成内容、個別管理またはプレゼンテーション技術の策定ができる。
- c. コンピューターを利用した学習教材のための指導計画が実施できる。
- d. コンピューターを利用した技術教育指導教材の作成または作成過程の計画ができる。

しかし、本研修分野の技術革新および参加者のコースニーズに基づき、第4回コースから到達目標は次のとおり変更された。

- a. コンピューター（特にマルチメディア）を利用した技術教育教材および指導教程の開発ができる。
- b. オーサリングシステム（教材作成支援ソフトウェア）を使用して適切なスクリーンの設計ができる。
- c. 技術教育指導に必要な個々の情報（スクリーン）をコンピューターを使用して統合（マルチメディアに）することができる。
- d. コンピューターを利用した技術教育における指導教材の作成または開発にかかわるさまざまな問題を理解する。

② 目標達成度

CPSCが実施した参加研修員に対する終了時クエスチョネアによると、各コースにおける研修員の新技术の習得度は高く、また、ほとんどの研修員が研修内容は参加目的に合致したものであり、期待に応えるものであったとしている。

また、各研修員が作成した技術教育教材用ソフトウェアから判断しても、本研修による研修員の技術レベルは総じて向上したと思われる。

4-2 研修効果

(1) 研修担当者による研修効果の評価

① 実施機関による評価

コースレポートに基づく評価結果は表3のとおりである。

表3 各コースにおけるコースレポートによる評価(要約)

	評 価 概 要
第1回コース 1991(平成3)年度	参加研修員のほとんどが本研修は期待どおりのものであり、参加目的にも合致していたと答えている。しかし、参加者のなかにコンピューターのバックグラウンドを持たない者が一部選考されたために、別途コンピューターリテラシーに関する講義が必要となった。また、本コースはCPSCのフェカルティメンバーが1人で全講義を担当したが、研修員からカリキュラムの内容に応じ複数の講師を配置してほしい旨の要望があった。
第2回コース 1992(平成4)年度	前回コースの評価結果に基づき、今回よりカリキュラムにコンピューターリテラシーの講義を取り入れ、コンピューターのバックグラウンドを持たない者が参加した場合でも対応できるようになった。また、講義の内容に応じ複数の講師を配置したため、研修の中身は非常に濃いものとなった。
第3回コース 1993(平成5)年度	今回からコンピューターのオペレーティングシステムをMS-DOSからMS-Windowsに変更した。これにより参加者はコンピューターに関する基礎知識がなくてもソフトウェアを扱えるようになった。また、今回のコースよりマルチメディアによる教材作成をカリキュラムに導入した。参加者の関心は非常に高く、そのために実習時間の延長を望む者が多かったが、研修全体としては、研修員からの評価は高く、一応の目標は達成されたものと思われる。

② 派遣専門家による評価

第2回および第3回コースに参加した派遣専門家は、研修の事前と事後にアチーブメントテストを実施し、研修員の研修成果を確認した。その結果、それぞれのコースにおいて70%を超える正当率が得られ、それぞれの専門家より「十分な成果を収めたと確信する」「マルチメディア教材作成をねらいとした入門段階での研修としては、一定の効果が認められたように考える」などの評価を得た。

しかし、第3回コースに参加した派遣専門家からは、「今後、同様の研修を効果的に継承、発展させるためには、コンピューターの機器操作や各種ソフトウェアの操作技術など、テクニカルアプローチによる内容のみでなく、いかなるメディアのもとでも、それらの特性を生かし、学習効果の期待できる教材設計についての知識を養えるような、教育的アプローチに重点を置いたカリキュラムが重要である。すなわち教材設計に重点を置いたカリキュラムであれば、今後各メディアに関する技術革新があっても、普遍性および系統性を保つことができよう」との提言があった。

(2) 研修員による評価結果

調査団が実施したクエスチョネアによると、各コースにおける技術習得度はいずれも高い(資料3「ミニッツ」ANNEXⅥ参照)。

本コースに参加したほとんどの研修員が、研修前は教材のソフトウェアを使用したことがなかったと答えていることから判断すると、本研修による効果はきわめて高いものであったと推察される。

しかし、帰国後の活用状況については必ずしも高い数字であるとはいえない。これは、教材として使用していたソフトウェアあるいはソフトウェアを動かすハードウェアが、割当国において十分整備されていないことが原因として考えられる。

また、調査団派遣中、現地において第4回コース参加者全員と面談し研修ニーズおよび効果についてのヒアリングを実施したが、クエスチョネア結果とほぼ同様の結果となった。

帰国後の活用予定についても具体的な計画を持っている国は少なかった。

(3) 評価結果に基づく改善の実施状況

C P S Cは参加研修員に対して終了時クエスチョネアを実施し、その結果をアカデミックボード(4-3-(3)-②-c. 参照)で審議して次回コースのカリキュラムの作成に反映させ、研修内容の改善に取り組んできた。

その過程において問題となったのが、本研修分野の著しい技術革新と研修参加者の技術レベルの差である。

コンピューター分野における近年の技術革新はめざましく、最新の技術が数カ月で旧式になってしまうのが現状である。このような状況では、常に最新の技術を用いて研修を実施する必要がある。

その結果、本コース開始時よりコンピューターのオペレーティングシステムとして使用されていたMS-DOSは、第3回コースからはMS-Windowsにかわり、これによりマルチメディアによる教材作成が可能となった。

一方、この技術革新は、第1回および第2回コースにおいて研修参加者に必要不可欠

であったコンピューターに関する基礎知識を不要とし、当初問題となっていた割当国間に存在する技術レベルの差に関しては研修実施上、問題がなくなった。

(4) 帰国後における研修結果の活用状況

研修員帰国後の研修成果活用状況については、割当国の技術レベルによりさまざまであった。

シンガポールのようにコンピューターを利用した教育（CAI：Computer Assisted Instruction）が、すでに教育現場で実用化されている国々では研修成果の活用度は高く、ダイレクトに現場に技術移転されているが、それ以外のほとんどの割当国では、研修の成果を活用するための資機材（MS-Windows対応コンピューター）が不足しているため、セミナーなどの実施によって間接的に研修の成果が活用されているのが現状である。

(5) 研修効果向上のために改善すべき課題

本研修コースは、そのタイトルからも明らかなように、コンピューターによる技術教育教材の作成ができるようになることを一番の目的としている。

その意味においては、参加した研修員らは研修終了時までにはほとんどがそのスキルを身につけることができるようになり、一定の成果があったものと思われる。

しかし、これら作成された教材が実際の教育現場でいかに効果的に使用されるか、あるいはされるべきかについての具体的な指導方法が本研修では十分に行われていない。また、割当国における教材の普及を考えた場合、教材作成に必要な映像や写真などの著作権についての認識も必要である。

現在はどちらかというと、教材作成のためのオーサリングソフトウェア（教材作成支援ソフトウェア）の使い方に重点を置いた研修になっているが、それ以外にも、教育効果の高い教材とはどのような教材か、また、それらの教材をいかに現場の教育に効果的に取り入れていくべきか、といった指導方法についても十分に指導していく必要があると思われる。

4-3 研修実施体制

(1) 業務運営

① 受入先の業務運営体制

CPSCはコロンボプラン加盟国の支援のもと、技術者教育のための国際機関としてすでに20年を超える活動をしており、加盟国からの評価は高い。

特に研修の運営に関しては豊富な経験とノウハウを持っている。CPSCが実施している研修プログラムは次のとおりである。

a. Regional Courses

コロンボプラン加盟国17カ国すべての国々を対象にした研修コースで、マニラのC P S Cにおいて実施される。

b. Sub-Regional Programs

コロンボプラン加盟国を共通の研修ニーズに基づいた地域に分けて実施するコースで、通常第三国に周辺国を集めて実施される。

c. In-Country Project Development Services

コロンボプラン加盟国に赴き、各国独自のニーズに基づいて実施される研修コース。

d. Special or Extra-Budgetary Courses

国際機関や二国間援助機関の資金援助により実施されるコース

なお、フィリピン共和国第三国集団研修「技術教育教材作成」は、上記d.のスペシャルプログラムとして実施されている。

② 関係省庁等の支援

C P S Cは国際機関という組織形態のため、加盟各国からの支援によって運営されており、したがって、フィリピン政府からも加盟国としての支援を受けている。しかし一方で、実施機関が国際機関であるがゆえに、本研修自体に対してのフィリピン政府からの特別な支援はこれまで得ることができなかった。

今回の調査において、フィリピン側援助の窓口機関であるフィリピン国家経済開発庁(NEDA)と本件について会合を持った。その結果、本研修に対する専門家の派遣および見学場所の提供など、今後の支援について快諾を得ることができた。

(2) コース運営体制

① コース運営指導者

本コースは、当初コンピューター分野の専門家であるオーストラリア人のファカルティメンバーDr. Terry Laneが、コースコーディネーターを担当する予定であったが、第1回コース終了後、オーストラリア政府の要請により同人が緊急帰国したために、第2回コースからは、技術教育分野に関するファカルティメンバーとしてC P S Cに派遣されていた日本人長期専門家(植松卓史氏/国際協力専門員)がコースコーディネーターを務めてきた。

C P S C側では、ファカルティメンバーを本コースのコースコーディネーターとして再度配置する予定であり、わが国に対しても本分野の長期専門家の派遣を要請している。

② 講師陣

本研修のために配置された講師陣は、その49%が日本人専門家で占められている。この割合はほかの第三国研修に比較するとかなり高い数字である。

その理由として i) CPSCにおいてコンピューター分野に関するファカルティメンバーが現在空席であり、現状では講師を外部に頼らざるを得ないこと。また、ii) コースカリキュラムの内容が年々高度化しているため、本分野において最新技術を有するわが国に対して、専門家派遣の期待が大きくなっていることなどがあげられる。

このため、本コースには研修カリキュラム上のそれぞれの分野において大学の教授、助教授クラスの専門家が招へいされており、実際の講義の密度はかなり高いものになっているといえる。

③ 研修施設

本研修の実施には、CPSCの研修施設が有効に活用された。CPSCには講義室、図書館など、研修に必要な設備はすべて整っており、また本研修の実施については、わが国が1988年に供与したコンピューターシステムが主に利用されている。

④ 教材（テキスト、視聴覚教材）

本研修に必要な教材は、研修カリキュラムの講義を担当する講師がそれぞれ準備をした。また、講義の実施に必要なOHP、ビデオなどの視聴覚機材はすべて整備されており、有効に活用された。

そのほか、CPSCの図書館において本研修用にコンピューター関連図書の特別コーナーが設置され、それぞれ参加者の理解に役立ったものと思われる。

(3) 研修実施方式

① 研修実施機関選定理由

本研修コースは、わが国が供与したコンピューターシステムを利用して、技術教育教材の作成とその普及を目的とした研修の実施について、CPSCからわが国に対し要請があったものである。

わが国は、本研修の実施によりわが国の供与したコンピューターシステムが有効活用されること、また、コンピューターによる技術教育教材作成という分野はわが国が得意とする分野であり、周辺国への技術移転に貢献できること、そしてCPSCの活動支援という立場から、本研修のCPSCでの実施について同意した。

もちろん、CPSCが研修実施機関として高い運営能力を有していたことはいうまでもないが、今回の評価調査に伴い実施機関について再度検証することとした。

② 実施機関

<事業内容>

CPSCは、コロンボプラン加盟国の支持により、コロンボプラン加盟国の技術者教育の向上を目的として設立された国際機関である（CPSCの組織については図1参照）。

主な事業内容は、i) 技術者教育および訓練のためのより充実したコースの運営、ii) 技術者教育のいろいろな観点からの研究会議の開催、iii) 加盟国の特別なプロジェクトの支援、iv) 調査、研究促進、協力、企画、V) 教育・訓練施設の援助、Vi) 技術者教育のための資料・情報の収集および伝達などである。

<運営体制>

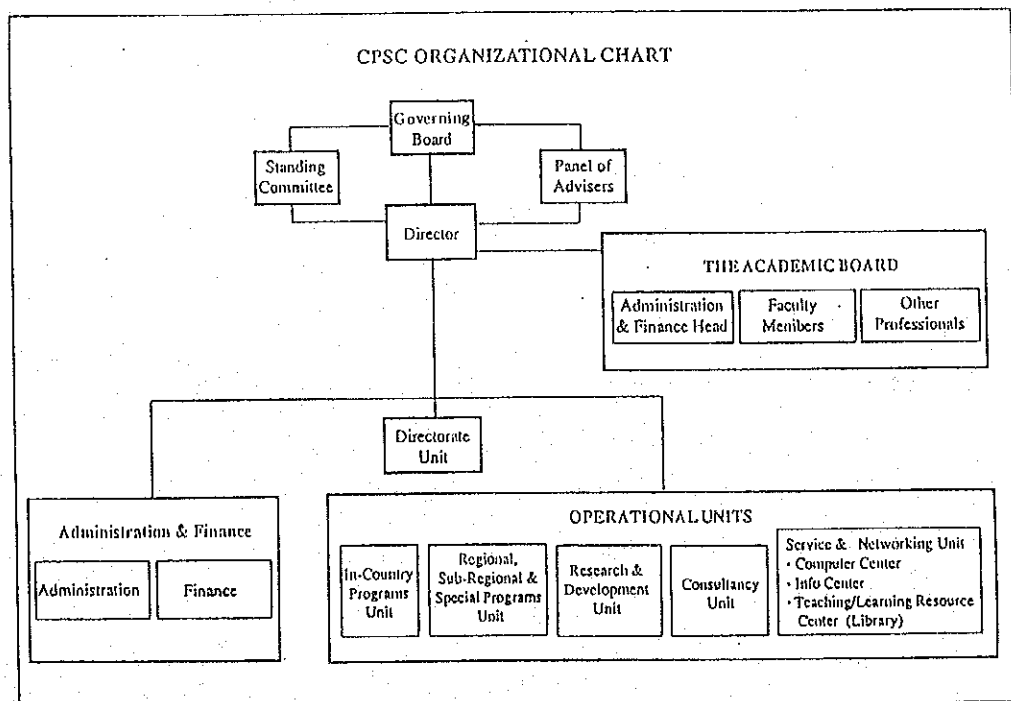
CPSCの最高意思決定機関は、各国大臣クラスで構成されるコロンボプランのコンサルテティブコミッティーであり、ここでCPSCの組織に関する政策や方針が決定される。

また、CPSC自体の運営および事業については以下の3つの審議会により決定され、CPSCのスタッフ（学長、ファカルティーメンバー、職員）がそれを実施する体制となっている。

a. Governing Board

- ・フィリピン駐在各国大使クラス+CPSC学長で構成される
- ・年3回程度開催
- ・CPSCにおける最高意思決定機関

図1 CPSC組織図



b. Standing Committee

- ・フィリピン駐在各国書記官クラス+CPSC学長で構成される
- ・必要に応じて開催
- ・事務局原案を審議しGoverning Boardに提出

c. アカデミックボード (Academic Board)

- ・CPSCのファカルティメンバーで構成される
- ・CPSCの運営方針の原案を決定
- ・現在のファカルティメンバーは8名(うち1名は日本人長期専門家)

また、このほかに加盟各国の教育省および職業訓練関係の役職者を召集し、2年に一度 Senior Administrators Conference を開催している。この会議では各国の開発の関心事項、優先事項について討議し、CPSCに対してリコメンデーションを行っている。リコメンデーションはその後、前記c. のアカデミックボードの審議にかけられ、CPSCの5カ年計画と照らし合わせながら、研修コースなどに具体化されていく。

<資金調達>

CPSCは、コロンボプラン加盟国の拠出金により運営されている。

また、国際/二国間援助機関よりプロジェクトベースでのサポートを受けている。

<加盟国>

アフガニスタン、オーストラリア、バングラデシュ、ブータン、フィジー、インド、インドネシア、イラン、日本、大韓民国、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、パプア・ニューギニア、フィリピン、シンガポール、スリ・ランカ、タイ(計19カ国)

<主な国際援助機関>

オーストラリア(AIDAB)

カナダ(ACCCC、VCC、CIDA)

日本(JICA)

イギリス(ODA)

The Commonwealth Fund for Technical Cooperation (CFTC)

<CPSCに対するわが国の援助実績>

- ・CPSCの運営資金を負担(拠出金)(1974年～)
- ・長期専門家派遣(1976～1994年)
- ・単独機材供与(1988年: コンピューターシステム)

③ 研修実施経費

R/D上に記載された日本側とCPSC側の経費分担は次のとおりである。

a. 日本側負担経費

- i 参加研修員に対する国際航空運賃、宿泊料、日当および保険料などの受入諸費
- ii 研修実施における外部講師謝金、研修旅費、教材費、事務員備上費、複写費および会議費などの研修諸費

b. CPSC側負担経費

日本側が負担する経費以外で研修実施に必要な経費

④ 負担経費額〔1991（平成3）年度～1993（平成5）年度〕

日本側負担経費額 : 364万4601.93ペソ

CPSC側負担経費額 : 46万4852.43ペソ

合計額 : 410万9454.36ペソ

*各コースにおける日本側およびCPSC側の負担額は表4のとおりである。

表4 研修実施経費負担額 (単位:ペソ)

	第1回コース	第2回コース	第3回コース	計
日本側負担	882,992.17	1,134,565.92	1,627,043.84	3,644,601.93
CPSC側負担	195,806.75	104,903.64	164,142.04	464,852.43
計	1,078,798.92	1,239,469.56	1,791,185.88	4,109,454.36

図2 年度別経費負担実績推移

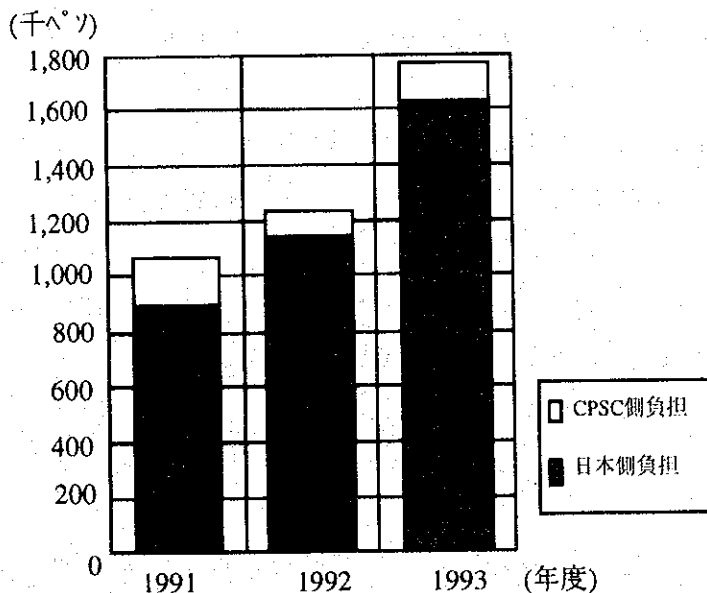
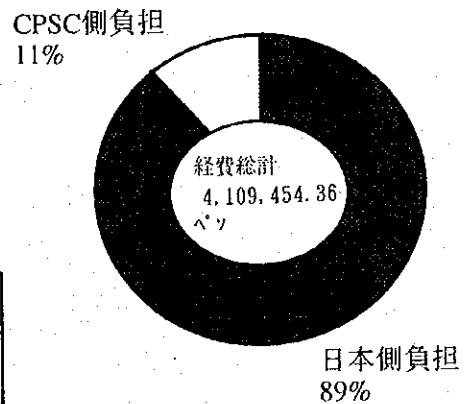


図3 国別経費負担割合



日本側経費については、実施機関より提出のあった研修経費見積りに基づいて実施され、金額、内訳ともに特に問題はみられなかった。

C P S C側が負担した経費については、国外講師招へい費がその大部分を占める。

これは、C P S Cが国際機関という組織形態のため、講師のほとんどを外部（コロンボプラン加盟国）から招へいせざるを得ないためである（資料3「ミニッツ」ANNEX Ⅱ参照）。

（4） 研修実施上の課題と改善の方向

C P S Cはコロンボプラン加盟国の技術者育成を目的としているため、本研修の割当国についてもコロンボプラン加盟国に限定している。

しかし、これらの国々はコロンボプラン設立時に比べて発展状況ならびに技術レベルもかなり異なってきている。

本コースに参加した研修員が、コンピューターによる技術教育教材作成のためのスキルを得ることに関しては、現状で問題になることはないと思われるが、帰国後の技術移転を考慮した場合、参加国のニーズおよび技術レベルはある程度共通していることが望ましい。またその場合、加盟国以外の国々の参加についても同様に検討する必要がある。

4-4 自立発展の見通し

C P S Cは国際機関として20年を超える実績があり、本コースの研修運営については参加研修員および短期派遣専門家から高い評価を得ている。

当初懸念された1996（平成8）年度以降のコース運営担当者についても、加盟国のひとつであるインドから専門家を招へいする見通しがあり問題はない。また、研修で使用しているコンピューターシステムについてもC P S C側の努力により年々グレードアップされ、16台中8台のコンピューターは、マルチメディア対応が可能となっており設備的にも問題はない。

他方、C P S Cは加盟国からの拠出金によって主に運営経費を調達しており、これらはC P S Cが実施している各種コースの運営経費、C P S C職員の給与、一般管理費などにあてられている。

その他、世界銀行などの国際機関からのサポートにより各種セミナーを実施しているが、本コースについては、今後加盟国からの拠出金が増えない限り、実施機関の経費のみでセミナーなどを開催することは困難であると思われる。

第5章 総括

5-1 評価の総括

本コースをそのコースニーズ、コース目標達成状況、当初設定コースの妥当性、そして研修実施体制の面から評価してきたが、全体的には第4章の評価結果のとおり、本研修は当初計画に基づき効果的に実施されてきたといえる（資料2参照）。

コンピューターによる技術教育教材は、途上国における絶対的な教員の不足に対処する手段として、また一般的に高価な技術教材をコンピューターにより疑似的に再現できることから、経済的な効果もあり、途上国における新しい教育方法として今後ますます重要な役割を担っていくものと思われる。

しかし、過去4回の研修でも明らかなように、本分野における技術革新はめざましく、したがって、いくら新しいコンピューターソフトの使用方法を教えても、すぐ旧式の技術になってしまう可能性があり、研修成果そのものが無駄になってしまう危険性がある。

第3回コースで講義した日本人専門家も指摘しているように、C A Iが実用化されている国々では、本研修で習得した技術が帰国後すぐ移転できるというメリットはあるものの、その反面、研修の成果を活用するための機材が十分でない国々にとっては、本分野のめまぐるしい技術革新の流れのなかで、研修で習得した成果を活用する機会のないまま終わる可能性がある。

したがって、現在のソフトウェアの使用方法を中心としたカリキュラムから、技術教育教材の設計やデザインを中心としたカリキュラムに変更し、使用するソフトウェアの新旧に左右されない技術の指導を行うことが望ましい。

具体的には、たとえば教育効果の高い色、文字、図形の使い方など、効果的な教材作成に必要なテクニックの指導が必要と思われる。

5-2 提言

現行R/Dは1995（平成7）年度で終了するが、実施機関側よりR/D終了後も引き続き日本側に第三国研修の協力を仰ぎたい旨の発言がなされた。

本コーステーマに対し途上国からの関心は今後ますます高まるものと思われる。また、実施機関の運営能力の高さ、そしてアジア地域における南南協力の拠点としてのC P S C に対する活動支援という観点から、日本側としても前向きに検討する必要があると考えられる。

また、今回の評価結果に基づいて、調査団より実施機関に対し以下の提言を行った。

(1) 研修資機材

本研修分野に関する技術革新に対応し、今後とも必要に応じ本研修の主要機材であるコンピューターのハードおよびソフトウェアのグレードアップを続ける必要がある。

(2) 核となる講師

本研修の講義はすべて外部講師により実施されているが、核となる講師はCPSCのファカルティメンバーが担当することが望ましい。

(3) 割当国

本研修の割当国については、それぞれの国におけるコンピューターによる技術者教育に対するニーズおよび適用性を十分考慮し再考する必要がある。

(4) マルチメディア

マルチメディアによる教材作成の実習は、コンピューターによる技術教育教材作成を理解するうえでの手段であり、本研修における主要項目となるべきではない。さらに、マルチメディアによる実習を本研修に導入する際には、割当国における関連ソフトウェアの利用状況ならびにハードウェアとの互換性について考慮する必要がある。

(5) カントリーレポート

参加者のその国におけるCAIのニーズおよび適用性を把握するために、割当国の現状についてのカントリーレポートの提出を参加者に義務づける。カントリーレポートには、その国の技術者教育にかかわるCAIに対する国の政策、現在の普及度、今後の可能性などの内容を含む。

(6) アプリケーションフォーム

現在使用されているアプリケーションフォームでは、参加者個人のCAIについてのバックグラウンドが十分とはいえない。応募者の適正な選考のためにも、参加者個人のCAIに関する経験や使用機材などの情報を、クエスチオネアとしてアプリケーションフォームに添付してもらう。

(7) 視察旅行

実際にコンピューターによる教育教材を使用しているフィリピンの教育現場や、教育教材用ソフトウェアを作成している企業などへの視察旅行を実施し、研修員に対し帰国後のCAI導入および技術普及のためイメージを育成させる。

(8) フィリピン人講師

実施国であるフィリピンにも本研修の講師として担当できる人材がおり、フィリピン政府の協力を得て実施国という立場から本研修に積極的に協力してもらうことが望まれる。

5-3 その他

今回の協議において、CPSC側から本研修に対して次のような要望が出された。

(1) 協力期間の延長

本研修コースの協力は1995（平成7）年度で終了を予定しているが、本コース実施に対する協力を今後継続してさらに5年間延長する。

(2) 長期専門家の派遣

現在空席となっているコンピューター分野のファカルティメンバーに、日本から長期専門家の派遣を希望する。

(3) 短期専門家の派遣

本研修コースにおける最新技術にかかわる講師として、短期専門家の派遣を今後も希望する。

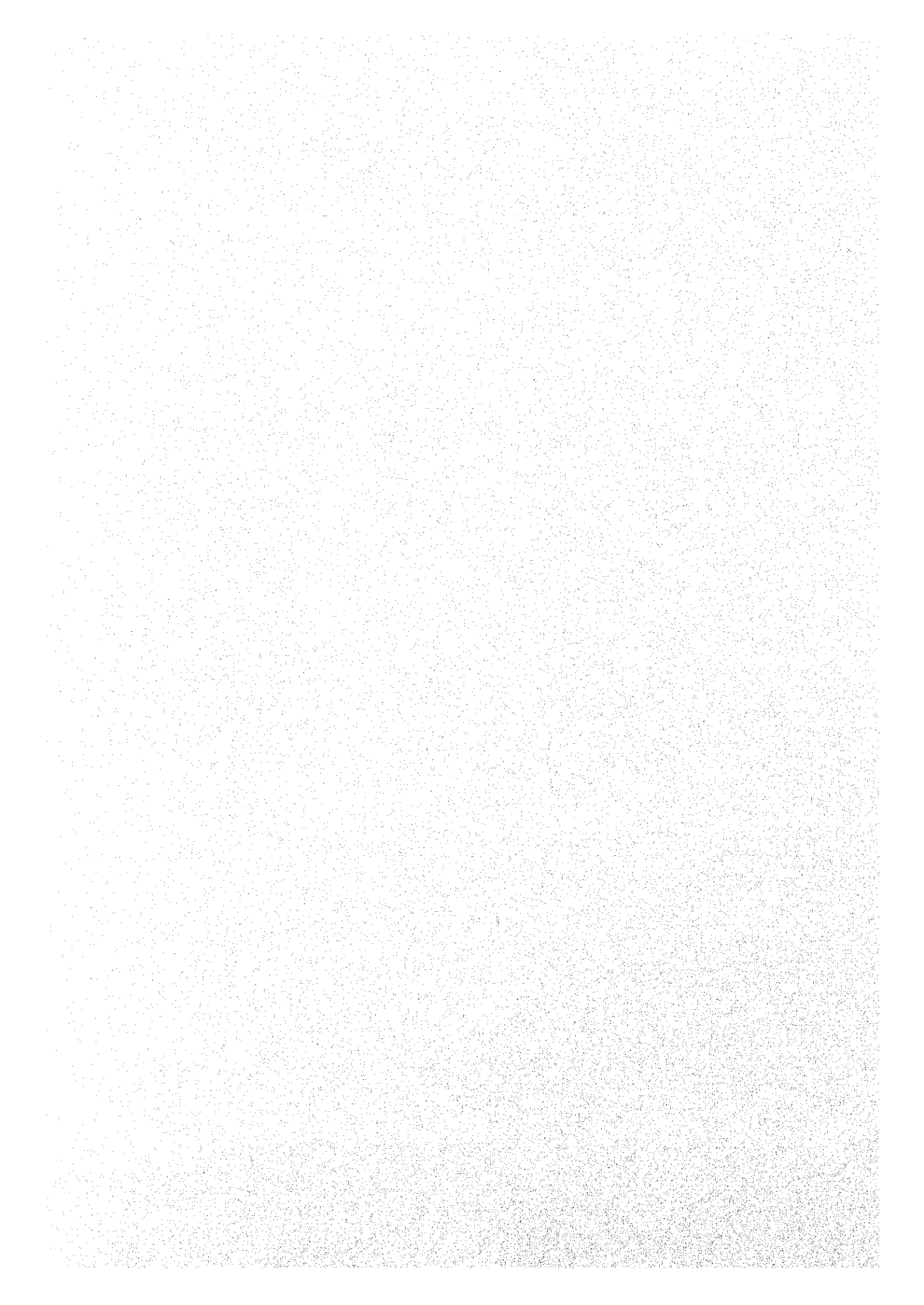
(4) 本研修で使用するコンピューターシステムのグレードアップ

本研修分野の技術革新に対応すべく、研修で使用しているコンピューターシステムのグレードアップに関する経費を協力してほしい。

上記(1)については、調査団帰国後、わが国外務省および関連機関との協議により決定される予定であること、(2)については、日本側ですでにCPSCからの要望を受けており、関係機関において検討中であることを説明した。

また、(3)については、1996（平成8）年度のコース実施に関する短期専門家派遣の要望をJICAフィリピン事務所に提出してほしいこと、さらに(4)については、コンピューターシステムが日本からの供与機材であることから、グレードアップに関する費用はCPSC側で負担してほしいことを説明した。

資 料



1 ロジカルフレームワーク

研修コースの概要 Narrative Summary	指 標 Verifiable Indicators	指標データ入手手段 Means of Verifications	重要な外部要件 Important Assumptions
<p><u>1.上位目標 Overall Goal</u></p> <p>育成された技術者が、割当各国の公営企業、または民間企業において、それぞれの分野の技術力の向上に貢献し、各国の経済開発に貢献する。</p>	<p>1) 技術者数の増加、技術者の質の向上</p>	<p>1) 各国教育省の年次報告書等</p>	<p>1) 国の政策として教育機材としてのPCが導入されている</p> <p>2) 物理的条件が揃っている (IBM系コンピュータシステムが導入されている)</p>
<p><u>2.研修の到達目標 Project Purpose</u></p> <p>研修員が研修で修得した知識及び技術を生かし、母国での技術者育成に貢献する。</p>	<p>1) 帰国研修員の研修成果の活用状況</p>	<p>1) 帰国研修員に対するクエスチョネアの分析</p>	<p>1) 学生がPCによる授業を抵抗なく受け入れる。</p> <p>2) 帰国後研修員が研修成果をフィードバックできるポジションにいる。</p>
<p><u>3.研修の成果 Outputs</u></p> <p>1) 技術教育の指導教材に適切なスクリーンフォーマットとレイアウトの設計ができる</p> <p>2) 特定技術における指導教程、構成内容、個別管理またはプレゼンテーション技術の策定ができる</p> <p>3) コンピュータを利用した学習教材のための指導計画が実施できる</p> <p>4) 技術教育のコンピュータを利用した指導教材の作成または作成過程の計画ができる</p>	<p>1) 年次別、国別研修終了者数</p> <p>2) 研修員による研修終了時評価</p> <p>3) 研修実施機関による評価</p> <p>4) 専門家による評価</p> <p>5) 研修終了時テスト</p> <p>6) 研修終了者の帰国後の活動状況</p> <p>7) コースの運営状況</p>	<p>1) 研修実施機関作成のコース・レポートの分析</p> <p>2) 同 上</p> <p>3) 同 上</p> <p>4) 派遣専門家の報告書の分析</p> <p>5) テスト結果の分析</p> <p>6) 帰国研修員に対するクエスチョネアの分析</p> <p>7) 調査団による総合的な分析 (各種報告書、大使館、現地事務所、実施機関等の意見)</p>	<p>1) 帰国研修員が所属機関 (教育現場) で勤務を続ける</p> <p>2) 研修員の所属機関に技術教育教材作成に必要な設備・機材が揃っている</p>
<p><u>4.活動 Activities</u></p> <p>コンピュータを利用した技術教育教材の作成及び開発に必要とされる知識及びスキルを修得する機会をアジア、大洋州諸国の参加者に提供する。</p> <p>1) コース名：技術教育教材作成</p> <p>2) 研修期間：毎年約4週間</p> <p>3) 研修機関：JICAアジア・パシフィック・グループ</p> <p>4) 割当国と定員数 アジア、大洋州地域15ヶ国15名 (実施国1名含む)</p> <p>5) 応募資格</p> <p>5-1. 技術者教育の学士または修士または同等の資格を有する者</p> <p>5-2. 技術者教育技術、カリキュラム作成、またはその教材作成に従事する者</p> <p>5-3. 教育・計画・教材開発に3年以上の経験を有する者</p> <p>5-4. ファイルコマンド、ディレクトリストラクチャを含むMS-DOSマイコンの基礎的な操作ができる者</p> <p>5-5. 所属先機関で技術者教育教材開発に関与する者</p> <p>5-6. 出身国政府から推薦のある者</p> <p>6) カリキュラム</p> <p>6-1. 教育教材設計</p> <p>6-2. スクリーン設計</p> <p>6-3. オフラインシステムその他関連ソフトウェア使用方法</p> <p>6-4. 教育教材開発技術</p>	<p><u>投入 Inputs</u></p> <p><u>日本側</u></p> <p>1) 日本側負担の研修実施経費</p> <p>2) 短期専門家の派遣</p> <p><u>フィリピン側</u></p> <p>1) 日本側負担以外に必要とされる運営経費</p> <p>2) 講師、スタッフの配置</p> <p>3) 研修、宿泊施設の提供及び機材、教材の調達、整備</p> <p>4) その他必要な便宜供与</p>	<p>1) R/Dに關した内容が実施される</p>	<p><u>前提条件 Pre-conditions</u></p> <p>1) コースニーズがある</p> <p>2) 研修有資格者が地域内にいる</p> <p>3) 適切な講師、派遣専門家の確保が可能である</p> <p>4) 研修に必要な施設、機材、教材等が整備されている</p> <p>5) 関連予算が確保されている</p>

2 終了時評価シート

I. コースニース		(1) コースニースの存在が確認された国：コロンボプラン 加盟国 17ヶ国の内ミャンマー、アフガニスタンを除く 15ヶ国 (1991年 R/D割当国：バングラ、ブータン、インドネシア、タイ、フィリピン、マラウ、パキスタン、スリランカ、PNG、ソロモン群島、実施国：7ヶ国) (2) コースニースの存在が確認された日本人専門家の意見、実施機関のコースレポート、実施機関及び研修生へのクエスチョナリー			
2. コースニースの変化	計	第 1 回 (1991年度)	第 2 回 (1992年度)	第 3 回 (1993年度)	第 4 回 (1994年度)
(1) 応募率	1.5 / 1.5 = 100%	1.3 / 1.5 = 86.7%	1.2 / 1.5 = 80.0%	1.3 / 1.5 = 86.7%	1.5 / 1.5 = 100.0%
4. 応募者数	1.6 / 1.5 = 107.0%	1.2 / 1.5 = 80.0%	1.2 / 1.5 = 80.0%	1.6 / 1.5 = 107.0%	3.1 / 1.5 = 206.7%
(2) 定員充足率	1.5 / 1.5 = 100%	1.3 / 1.5 = 86.7%	1.2 / 1.5 = 80.0%	1.3 / 1.5 = 86.7%	1.5 / 1.5 = 100.0%

II. コースの目標達成度

1. インプットの達成計画		第 1 回 (1991年度)	第 2 回 (1992年度)	第 3 回 (1993年度)	第 4 回 (1994年度)
(1) 日本側	1) 研修総費 2) 専門家派遣 3) 携行機材 4) C/P 受入	1) なし 2) なし 3) なし 4) なし	1) 石川 賢 (9/25 - 10/20) 2) 京都大学教育学部助教授 3) IBM PS/55 Note Model (5523-SV8) 4) Megabytes Ram Card Mini Mouse 85 Megabytes Hard Disk Modem: 2400 bps なし	1) 林 徳治 (10/21 - 11/4) 2) 京都大学教育学部助教授 3) 西村 治彦 (10/12 - 10/31) 4) 兵庫教育大学 助手 M-O Drive 500 Megabytes Hard Disk Drive Mr. Eric Zulaybar 7ヶ国が7ヶ国による教材開発 (94.3.28~94.6.27)	1) 林 徳治 (11/21 - 12/12) 2) 京都大学教育学部助教授 3) 牧野 亮哉 (11/15 - 12/12) 4) 福井大学 教授 5) 宮田 仁 (12/3 - 12/18) 6) 京都大学 助手 7) Still Video Camera 8) V.C.R (Multi System) なし
(1) アカデミック側	1) アカデミック側が事前に決定 2) アカデミック側が手配	1) 講師 1名 コーディネーター 1名 (CPSCのコーディネーターである Dr. Terry Lane が兼務)	1) 講師 2名 Mr. Emetto Tipa Mr. Edward Ming コーディネーター 1名 植松 卓史 (派遣専門家が対応)	1) 講師 2名 Prof. Meena Kumari Sridhar Mr. Edward Martin Ming コーディネーター 1名 植松 卓史 (派遣専門家が対応)	1) 講師 5名 Prof. M. Radhakrishna Prof. Meena Kumari Sridhar Prof. Jiro Yoshio Mr. Yoshio Saito Mr. Pradit Thammarat コーディネーター 2名 植松 卓史 (派遣専門家が対応) Ms. Farida Javed
2. アウトプットの達成計画		15名 (1名)	12名 (1名)	13名 (1名)	15名 (1名)
(1) 研修員受入数 (内実施機関)	実施機関によるクエスチョナリーの達成	70%	100%	78%	
(2) レベルアップの程度	実施機関によるクエスチョナリーの達成	70%	100%	78%	

	第1回 (1991年度)	第2回 (1992年度)	第3回 (1993年度)	第4回 (1994年度)
(3) 研修成果の活用状況	活用度 Very Much 1名 Not at all 1名 普及度 Quite Much 1名 Not at all 1名	活用度 Very Much 1名 Quite Much 2名 Some what Much 1名 普及度 Very Much 1名 Quite Much 2名 Some what Little 1名	活用度 Very Much 2名 Some what Little 1名 Not at all 1名 普及度 Very Much 1名 Quite Much 2名 Some what Little 1名	

II. 計画の妥当性

	第1回 (1991年度)	第2回 (1992年度)	第3回 (1993年度)	第4回 (1994年度)
(1) 到達目標	コンピュータ教育に関する教育的な背景、理論的基礎、コンピュータリテラシーに対する理解が必要 (管理調査団)	概ね妥当 「事前に派遣者に要請された目標は達成され、十分具体的な成果が得られたと評価する (専門家)」	概ね妥当 技術教育教材としてのマルチメディアの紹介に重きをおいた内容となっているが、クエスチョンペーパーによると参加者全員がカリキュラム内容は研修の期待にこたえるものであったとしている。	
(2) 研修期間、時期	10月7日～10月31日 (期間について9名が妥当、2名が長い、2名が短いと回答)	10月5日～10月30日 (期間について8名が妥当、4名が長いと回答)	10月18日～11月12日 (期間について7名が妥当、3名が長い、3名が短いと回答)	11月21日～12月16日
(3) 資格要件	コンピュータに関するリテラシーが十分でない者がいる (管理調査団報告書)	コンピュータのバックグラウンドを持っていない者がいる (コースリポート)	本コースよりOSにMS-WINDOWSを採用したことにより資格要件の4にあげられているMS-DOSに関する知識は不要となった。	
(4) 定員・割当国	1. 技術者教育の学士または修士または同等の資格を有する者 2. 技術者教育技術、カリキュラム作成、またはその教材作成に従事する者 3. 教育・計画・教材開発に3年以上の経験を持つ者 4. ファイルコマンド、ディレクトリストラクチャを含むMS-DOSマイコンの基礎的な操作ができる者 5. 所属先機関で技術者教育教材開発に参与する者 6. 出身国政府から推薦のある者	応募状況：定員にこそ達しないがブータンを除く殆どの割当国が毎回応募している。PSCのリエンジニアリングが一次選考を、CPS C本部が最終選考を実施している。割当国については、コロンボプラン加盟国に限定されているが、加盟国内の技術の差から判断すると、必ずしも現在の割当国は妥当ではないと思われる。 定員数については現在利用できるコンピュータ数(15台)及び本コースが実習の多い授業形態をとっていることから判断すると、現在の人数が妥当であると考えられる。		

	第1回 (1991年度)	第2回 (1992年度)	第3回 (1993年度)	第4回 (1994年度)
(5) カリキュラム	計 画 1. 教育教材設計 2. スクリューン設計 3. オペレーティングシステムその他 関連ソフトウェア使用方法 4. 教育教材開発技術	同 左	同 左	同 左
(6) 講師陣	CPSC 1名	外部講師 2名 日本人専門家 1名	外部講師 2名 日本人専門家 2名	外部講師 5名 日本人専門家 3名
(7) 資金負担の割合	日本側 ・ 受入研修員旅費、滞在費等受入 諸費 ・ 外部講師謝金等研修諸費 ・ フライピン側 ・ コース運営に必要な経費で日本側 が負担しない経費の負担	同 左	同 左	同 左

1. 実施機関 コロロンポプラン スタッフカレッジ (Colombo Plan Staff College For Technical Education : CPSC)				
	第1回 (1991年度)	第2回 (1992年度)	第3回 (1993年度)	第4回 (1994年度)
1. 実施機関	計 画 コロロンポプラン スタッフカレッジは、コロロンポプラン加盟国の向上を目的として、1973年12月5日に設立された国際機関である。 当初はシンガポールに本拠を置いたが、1987年2月23日にフィリピンに移り、現在はマニラ郊外のバングにある University of Life 内にある。(1) 技術者教育、訓練の為に充実したコースの運営 (2) 技術者教育の色々な観点からの研究会議の開催 (3) 加盟国の特別なプロジェクトの支援 (4) 調査、研究促進、協力、企画 (5) 教育、訓練施設の援助 (6) 技術者教育の為に資料、情報収集・伝達等である。	同 左	同 左	同 左
2. 業務運営体制	計 画 1. 割当国へのGI配布 2. 申込書を受領、研修員の選考及び専攻結果のJICA事務所への報告 3. 割当国への選考結果通知 4. カリキュラム作成 5. GIの作成・印刷 6. 講師、指導者の配置 7. 施設の提供 8. 研修員の宿泊場所の手配 9. 航空券の手配、空港送迎 10. 研修旅行の手配 11. 必要な経費で日本側が負担しない部分の予算措置 12. 修了証書の発給 13. コースの評価及び報告書の提出 14. コースに関連する諸問題の調整	計画通り運営された。 第1回のコースに限り、手続き上の理由により、JICAワシントン事務所が研修員の航空券を購入した。	計画通り運営された。 *第1回コース参加者が(ワグ-研修員)再度選考された経緯あり *コース運営について不満を述べる者はなく、むしろ満足している者の方が多い(エズボ-ト) *宿泊施設についてワグを2人で入る事に対して、年長参加者より不満があった(エズボ-ト)	計画通り運営された。 *コース運営について参加者全員が満足している(エズボ-ト) *宿泊施設に対する不満はなかった(エズボ-ト)

	計 画	第 1 回 (1991年度)	第 2 回 (1992年度)	第 3 回 (1993年度)	第 4 回 (1994年度)
2. コース運営体制					
(1) 講師・職員	CPSCの要人 Dr.Terry Lane が講師を担当	当初計画通り実施	Dr.Terry Lane が豪政府の要請により急遽帰国した事により、長期専門家を中心に Dr.Terry Lane が講師となり、長期専門家を中心に Dr.Terry Lane が講師の選定、配置を行った。研修科目の専門性に応じ複数の講師を配置した。	長期専門家を中心に Dr.Terry Lane が講師の選定、配置を行った。研修科目の専門性に応じ複数の講師を配置した。	長期専門家を中心に Dr.Terry Lane が講師の選定、配置を行った。研修科目の専門性に応じ複数の講師を配置した。
(2) 研修施設	CPSCの施設を利用	当初計画通り実施	同 左	同 左	同 左
(3) 教材・教材整備状況	本研修の実施には、日本より単独機材供与 (1989年) したコンピュータシステム (15台) を利用 ・ PC Laser 286-20 15台 ・ 教材作成用ソフトウェア PC Pilot 1本 ・ 事務処理用ソフトウェア 2本	当初計画通り実施	教材のソフトウェアを動かすには、コンピュータのモニターが旧式であったためソフトウェアの改修作業を必要とした ・ 教材作成用ソフトウェア Gate Manager	コンピュータシステムを部分的にグレードアップし、マルチメディアへの対応を可能とした。 ・ 7MHzの教材開発装置 Link Live	同 左
(4) カリキュラム見直しの実施状況	研修機関の実施した研修及び日本人専門家の意見に基づき実施。見直し状況はコースレポートに記載される。		コンピュータに関する理論及びコンピュータリテラチンシーに関する講義の実施。 ・ 専門性に合わせ複数の講師を配置	技術教育教材としてのマルチメディアの紹介 ・ 帰国研修員に対するフォローアップの実施	同 左
4. 自立発展性					
(1) 物的・技術的自立発展の見直し	当初本コースを担当する予定であった豪人 Dr.Terry Lane が、第1回のコース終了後、豪政府の要請により急遽帰国した事により、CPSCに派遣されていた長期専門家 Dr.Terry Lane がそれ以降のコース運営を担当してきた。本専門家も95年4月には任期が終了する予定であり、今後のコース実施担当者への配置が考慮される。また、研修で利用している我が国が供与したコンピュータシステムについては、年々進歩するソフトウェアの機能に対応できなくなっており、ハードウェアの整備または機能の改善が必要となっている。				
(2) 組織的自立発展の見直し	本コース実施機関は、国際機関として20年を越える実績を持っており、本コースの研修運営についても、研修員及び専門家より高い評価が与えられており特に大きな問題は見受けられない。 他方、英国、加国が加盟国から脱退するなど、国際機関としての今後の方向性には注視する必要がある。				
(3) 財務的自立発展の見直し	実施機関は加盟国からの拠出金より運営経費を調達しており、各種コースの実施、職員の手給、一般管理費等に使用されている。 その他、世銀等の国際機関のスポンサーによりセミナーの実施をしているが、本コースの実施についても加盟国からの拠出金が増えない限りは、実施機関の経費で負担することとは困難であると思われる。				

3 ミニッツ (写し)

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN THE JAPANESE EVALUATION TEAM AND
THE COLOMBO PLAN STAFF COLLEGE
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME IN THE FIELD OF
COMPUTER-BASED INSTRUCTIONAL MATERIALS DEVELOPMENT
(30 November 1994 ~ 7 December 1994)

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Hiroshi Niino, visited the Republic of the Philippines from November 29 to December 8, 1994 for the purpose of evaluating the training course in the field of Computer -Based Instructional Materials Development at the Colombo Plan Staff College (hereinafter referred to as "CPSC") under the Third Country Training Programme of JICA which has been carried out since the Japanese fiscal year (hereinafter referred to as "the JFY") of 1991 in the Republic of the Philippines.


During its stay in the Republic of the Philippines, the Team had a series of meetings with the representatives of CPSC headed by its Director, Dr. C.K. Basu with respect to the progress and achievement of the course.

As a result of the meetings, both parties shared the view that the course had contributed to the development of knowledge, skills and experiences in the field of Computer-Based Instructional Materials Development among Asian and Pacific countries.

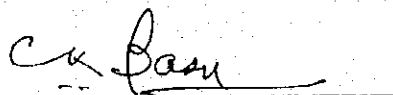
During the meetings, CPSC requested for the five-year extension of the Course under the Third Country Training Programme of JICA. The team promised to convey the request to the authorities concerned the Government of Japan.

A list of the attendees to the meetings is attached as APPENDIX I. A summary report based on the meetings is attached as APPENDIX II

Manila, December 7, 1994



Mr. Hiroshi Niino
Head of the Japanese
Evaluation Team
Japan International
Cooperation Agency (JICA)



Dr. C.K. Basu
Director
Colombo Plan Staff College (CPSC)

APPENDIX I : LIST OF ATTENDEES

APPENDIX II : SUMMARY REPORT

I Background

II Items of Evaluation

III Evaluation

1 Course Needs

2 Attainment of Course Objectives

(1) Inputs

a. JICA input

b. CPSC input

(2) Outputs

a. Accepted Participants

b. Attainment of Course Objectives

3 Adequacy of Initial Plan

(1) Course Objectives

(2) Duration

(3) Qualification of Applicants

(4) Number of Expected Participants and Invited Countries

(5) Curriculum

(6) Lecturers

4 Administration and Management

(1) Implementing Measures by CPSC

(2) Course Conduct

a. Lecturers

b. Training Facilities and Equipment

c. Training Materials

d. Reconsideration of Curriculum

IV Recommendations

LIST OF ATTENDEES

JAPANESE SIDE

1) Evaluation Team

MR. HIROSHI NIINO Head of Japanese Evaluation Team
Deputy Director, Administration Division
Training Affairs Department
Japan International Cooperation Agency

MR. HIROSHI NEMOTO Senior Curriculum Specialist
Lower Secondary School Division
Elementary and Secondary Education Division
Ministry of Education

MR. MASATOSHI TAKAHASHI Staff, First Training Division
Training Affairs Department
Japan International Cooperation Agency

2) JICA Short-Term Experts

MR. RYOYA MAKINO Professor
University of Fukui

MR. TOKUJI HAYASHI Assistant Professor
Kyoto University of Education

MR. HITOSHI MIYATA Assistant
Kyoto University of Education

3) JICA Philippines office

MS. SUZUKA INOUE Assistant Resident Representative

PHILIPPINES SIDE

1) CPSC

DR. C K BASU Director

PROF. TAKASHI UEMATSU CPSC Faculty Member seconded by JICA and
Coordinator of the Course

MS. EMMA P. TAN External Relations and Development Officer

PROF. M. RADHAKRISHNA Lecturer

ENGR. FARIDA JAVED CPSC Core Faculty Member and
Co-Coordinator of the Course

2) National Economic & Development Authority (NEDA)

MS. CARMENCITA JUAN GUIYAB....Executive Officer
Special Committee on Scholarships

MS. AURORA T. COLLANTES.....Desk Officer
Special Committee on Scholarships

I. BACKGROUND

1. Recognizing the growing needs for technician educators in the field of Computer-Based Instructional Materials Development in the Asian and Pacific countries, CPSC initiated the Training Course on Computer-Based Instructional Materials Development under the Third Country Training Programme (hereinafter referred to as "the Course") in collaboration with the Government of Japan through JICA in the Japanese fiscal year (JFY) of 1991 based on the Record of Discussions signed on June 28, 1991.
2. The Course has been conducted once a year for the past four (4) years by CPSC and supported by the Government of Japan under its technical cooperation scheme.
3. The purpose of the Course is to provide the participants from Asian and Pacific countries with opportunity of acquiring the knowledge and skills required to design and develop computer-based instructional materials.
4. On this occasion, the Japanese Evaluation Team visited the Republic of Philippines for the purpose of evaluating the course of four (4) years from JFY of 1991 to 1994.

II. ITEMS OF EVALUATION

Evaluations were made on the following four (4) items.

1. Course Needs
2. Attainment of Course Objectives
3. Adequacy of Initial Plan
4. Administration and Management

by acquiring information through the following:

1. Discussions with the authorities concerned
2. Interview with participants
3. Interview with lecturers
4. Questionnaire previously sent to CPSC by JICA
5. Questionnaire previously sent to ex-participants by JICA
6. Various questionnaire surveys conducted by CPSC
7. Report submitted by Japanese short-term expert
8. Course Report Submitted by CPSC (including JICA structured evaluation questionnaire)

III. EVALUATION

1. Course Needs

Judging from the number of applicants per country, the potential needs for the Course are recognized in all countries except Bhutan.

The number of applicants and selected applicants is shown in ANNEX I.

2. Attainment of Course Objectives

Attainment of course objectives is evaluated on the inputs by both parties and the outputs of the Course.

(1) Inputs

a. JICA input

-Budget

JICA provided CPSC with the funds necessary for the invitation of overseas participants, their international economy-class air fare, accommodation, per diem, and medical insurance premiums, as well as the expenditure for operating the Course such

as honoraria for external lecturers, arrangement of meetings and study tours, teaching aids, expendable supplies, copies, reprints, and secretarial services. The total operational costs borne by JICA from JFY of 1991 to 1993 summed up to about 3.7 million pesos, and 1.7 million pesos are estimated to implement the fourth course. The statement of JICA expenditures is shown in ANNEX II

-Dispatch of Japanese experts

Under the programme, JICA has dispatched six (6) short-term experts as lecturers in the field of Computer-Based Instructional Materials Development during the four-year period of the Course.

Besides, course coordination is executed by a long-term expert assigned by JICA to CPSC.

Their names and duration of stay are shown in ANNEX III.

-Provision of Equipment

Hard and softwares, such as lap-top computer, have been brought to CPSC by JICA experts for use in teaching course-related subjects effectively.

The list of equipment is shown in ANNEX III.

-Counterpart training in Japan

JICA has accepted one (1) computer laboratory staff as counterpart from CPSC for training in Japan.

His name, subject and duration of stay are shown in ANNEX III.

b. CPSC input

-Budget

Besides the expenses financed by the Government of Japan, CPSC has taken budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course. Invitation expenses for overseas lecturers, material procurement, overhead costs and running costs were funded by CPSC. The total operational costs borne by CPSC from JFY of 1991 to 1993 were about 304 thousand pesos. The statement of CPSC expenditures is shown in ANNEX II

-Assignment of lecturers and other staff

CPSC assigned an adequate number of academic and administrative staff including external lecturers for the Course based on the

evaluation conducted by CPSC.

-Provision of facilities and equipment

CPSC provided whatever training facilities and equipment were needed for the Course, such as library, lecture rooms, audio visual equipment and printing facilities.

(2) Outputs

a. Accepted participants

On average, more than 13 participants were accepted annually during the four-year period. The accumulated number of participants in the past four years is fifty-three (53)

b. Attainment of objectives

-Objectives to be attained

According to R/D finalized between JICA and CPSC, at the end of the Course, the participants are expected to be able to :

- ① design screen formats and layouts appropriate for instructional materials in technician education.
- ② design lesson sequences, organize content and specify control or presentation techniques specific to the technology
- ③ implement an instructional design for computer-based learning materials, and
- ④ produce, or oversee the production of computer-based instructional materials in technician education.

Based on the results of course evaluation conducted by CPSC, CPSC modified the objectives for the fourth course as follows.

- ① design computer-based conventional and multimedia-based instructional materials and lessons
- ② design appropriate display screens using an authoring system
- ③ integrate individual screens to make complete lessons
- ④ understand various issues involved in the design and use of computer-based instructional materials in educational environments

-Degree of attainment

According to the course reports which contain the analysis of the questionnaires filled up by participants (see course report) during the last three courses (from 1991 to 1993), most of the participants expressed that the main objective had been considerably met, and that their expectations have been considerably accomplished. On the other hand, a JICA expert carried out a pre and post-evaluation test (paper test) on the second year of the course (1992) to ascertain the effects of training during the Course. In the test, correct answer rate is 92 %. Moreover, judging from instructional materials made by the participants at the end of each course, participants' outcome is successful.

From the above results, it can be concluded that the degree of attainment of the participants is high.

3. Adequacy of Initial Plan

(1) Course Objectives

Based on the high attainment of participants' expectations and their purpose of participation, it can be concluded that the setting of the course objectives was adequate. The results of the questionnaires filled up by ex-participants are shown in ANNEX VI.

(2) Duration

Four weeks were scheduled for the Course. Some participants requested that the course duration be shortened or extended due to their respective level of qualification. However, most of the participants considered that the duration of the Course is adequate considering the contents of the Course and their personal conditions.

(3) Qualification of Applicants

The R/D stipulates that applicants for the Course are;

- (1) To be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure mentioned,
- (2) To hold a post secondary bachelors, masters degree or secondary diploma which is certified by recognized teaching organizations, in the field of engineering, technician education, technical teacher education, computer, business, education technology and any field related to technician education.

- (3) To work currently in an area related to instructional technology, instructional or curriculum design, or engaged in the development of instructional or curriculum materials,
- (4) To have at least three (3) years experience in teaching and/or in the design or development of instructional materials.
- (5) To have the basic operation know-how of an MS-DOS microcomputer including file commands and directory structures, engaged in the development of instructional or curriculum materials,
- (6) To be assigned or involved in developing instructional materials for programmes or courses in their respective organizations / institutions,
- (7) To be citizens of the invited countries, and
- (8) To have a good command of spoken and written English and be in good health, both physically and mentally, to complete the Course.

It is desirable, but not essential for participants to have some experiences in the use of presentation graphics or authoring software.

Most of applicants possessed necessary qualification for the Course.

However, a few applicants who had limited computer background were also selected as participants. They were able to overcome their inadequacy of the technical experience by means of effective hands-on exercises and additional voluntary remedial sessions conducted during the Course.

(4) Number of Expected Participants and Invited Countries.

Judging from the number of computers and time allocation for hands-on exercises, the number of expected participants (not to exceed fifteen (15)) was considered to be adequate. However, sometimes the total number of participants from the invited countries was less than the expected number of fifteen due to the lack of appropriate qualification and institutional background among the applicants. CPSC liaison officers screen the applicants based on the qualification indicated in the G.I. before CPSC selects the participants. As shown in ANNEX I Bhutan was invited to nominate applicants, however, no nomination was received from this country.

More consideration should have been given to selecting invited

countries. From the fourth course, Myanmar was invited because of its expressed interest and need for development in this field. To ensure technology transfer, the specific needs and applicability of CAI in TVE system in the regional countries should be taken into consideration in selecting participating countries.

(5) Curriculum

The coverage of subjects and time allocation for lectures, discussions, and hands-on exercises are judged to be almost adequate according to course reports.

On the other hand, the curriculum has been modified yearly in accordance with technological progress in this field. Before the induction of the latest technology to the Course, the specific demands and applicability for the latest technology in invited countries should have been surveyed prior to the implementation of the Course.

(6) Lecturers

CPSC assigned an adequate number of internal and external staff as lecturers. However, core lecturers should be assigned among CPSC faculty members. JICA experts delivered about 42 % of the lecture sessions and hands-on exercises for the Course, a rather quite high percentage compared to other Third Country Training Programmes.

4. Administration and Management

(1) Implementing measures by CPSC

In organizing and implementing the Course, CPSC was to take the following measures described in R/D:

- (a) To draft and print the General Information brochures (G.I.) and forward them to the invited Governments through their Liaison Officers.
- (b) To receive application forms through their Liaison Officers,
- (c) To make the final selection in order to admit only those participants who are well-qualified and who have potential and commitment to contribute to the development of computer education application in their home institutions,
- (d) To inform the result of the selection to the Government of the

invited countries and JICA Philippines not later than thirty (30) days before commencement of the Course,

- (e) To formulate the curriculum,
- (f) To assign an adequate number of its staff as lecturers / instructors for the Course,
- (g) To provide its training facilities and equipment for the Course
- (h) To arrange accommodation for participants,
- (i) To arrange international airtickets for participants and to meet and see them off at the airport,
- (j) To arrange domestic tour(s) included in the Course, if necessary,
- (k) To take budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course excluding the expenses financed by the Government of Japan;
- (l) To issue certificates to the participants who successfully completed the Course,
- (m) To evaluate the achievements of the participants, course contents, curriculum and administrative performances,
- (n) To submit a course report to the JICA Philippines within thirty (30) days after the termination of the Course, and
- (o) To coordinate any matters related to the Course.

There are several difficulties regarding above implementation of the course as follows:

- (1) Some applications were sent to JICA local offices directly because of insufficient understanding regarding application procedures.
- (2) It seems to be difficult to select qualified participants in the present nomination method.
- (3) The arrangement of international airtickets in the first course was done by JICA Phillipines office for some management and administrative reasons. From the second course on CPSC arranged airtickets for participants as described in R/D.

Other measures have been followed effectively in the past four years .

(2) Course Conduct

a. Lecturers

It could be said that lecturers had excellent mastery of subject matters suitable for the purpose of the Course and they had a good command of spoken and written English.

Thus, it seems that the contents of lectures were well-received, but evaluation on lecturers is not necessarily done with strict frames (evaluation papers).

b. Training Facilities and Equipment

The laboratories, lecture rooms and necessary facilities were provided by CPSC. Main facilities in this course is the computer system which was provided by Japan in 1989.

Although the computer system became outdated to operate softwares used for the course, the computer system has been upgraded so that it can cope with the latest softwares before the third and fourth course in 1993 and 1994, respectively.

c. Training materials

Training materials such as handouts, textbooks and theme papers were used frequently in lectures. Equipment such as OHP and video were also used.

Textbooks and lecture materials shown in ANNEX V were provided to participants by CPSC and external lecturers. Reference books (materials) concerning computers in the CPSC library were helpful for further understanding of the course lessons.

d. Reconsideration of curriculum

The curriculum of the Course has been reconsidered by the course coordinator and resource persons every year in order to increase the training effect and reflect the participants' opinions and results of evaluation of each previous year's course.

Some computer literacy lessons was integrated from the first course. The 286 computer systems were upgraded to 386 EGA for rapid response in the second course. MS-WINDOWS replaced MS-DOS as an operating system for the computers in 1993. Thus, environment of multimedia production was prepared for the third course. The fourth course introduced multimedia on full scale with a few 486 systems added.

CPSC recognized that computer-based teaching materials are constantly advancing, and it's very important to induct the latest

technology in order to conduct the Course effectively.

Thus, the level of the Course is upgraded year by year.

IV. RECOMMENDATION

As results of the meetings, the following items have been suggested by the Team to improve the Course.

1. Training facilities and equipment:

Reflecting rapid technology progress in the field, the computer hardware and software should be upgraded.

2. Core lecturers:

Core lecturers in the field of CAI should be assigned among CPSC faculty members.

3. Invited Countries:

Invited countries should be carefully reconsidered taking into account the specific needs and applicability of CAI in TVE system in the regional countries.

4. Multimedia:

Since multimedia production exercise is one of the means of CAI understanding, it should not be the core element of the Course. In addition, the portion of multimedia production exercise in the Course should be decided in consideration of availability of software and compatibility of computers in the participant's country.

5. Country report:

It is recommended that participants submit country reports at the beginning of the course describing CAI situation of each participant's country in order for CPSC to grasp the needs and applicability of CAI in each participant's country.

The country report may include state policy, computer capability and degree of dissemination of CAI in TVE system.

6. Application form:

In the present application form, applicant's background information is not enough for CPSC to select suitable participants for the Course.

It is recommended that a questionnaire be attached to the application form asking the hard/software background and experiences of the applicants in the field of CAI.

7. Observation tours:

It is recommended that observation tours to prestigious Philippine CAI/TVE institutes and software houses producing CAI software be included in the Course.

The observation tours will enrich the participants with the clear image of CAI situations among the regional countries.

8. Filipino resource persons:

It is recommended that at least one or two Filipino resource persons conduct lecture sessions on situation of CAI in the Philippines or its related field.

V. OTHERS

During the meeting, CPSC gave the requests and statements shown in ANNEX VII to the Team.

The Team agreed to convey CPSC's requests and statements to authorities concerned.

THE COMPARISON OF APPLICANTS AND PARTICIPANTS

	TOTAL		1991		1992		1993		1994	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
A The number of applicants										
B The number of participants										
BANGLADESH	5	3	2	1	1	1	0	0	2	1
BHUTAN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FIJI	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
INDIA	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
INDONESIA	11	3	0	0	1	1	1	1	9	1
IRAN	5	4	2	1	1	1	1	1	1	1
KOREA	3	3	1	1	0	0	1	1	1	1
MALAYSIA	8	4	1	1	1	1	2	1	4	1
NEPAL	6	4	1	1	1	1	2	1	2	1
PAKISTAN	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
PAPUA NEW GUINEA	3	3	1	1	0	0	1	1	1	1
SINGAPORE	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
SRI LANKA	7	4	1	1	1	1	1	1	4	1
THAILAND	6	4	2	1	1	1	2	1	1	1
MYANMAR	1	1	--	--	--	--	--	--	1	1
SUBTOTAL	71	49	15	12	11	11	15	12	30	14
PHILIPPINES	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
TOTAL	75	53	16	13	12	12	16	13	31	15

* Participants financed by other resources except JICA are not included in this list

TRAINING PERIOD

1 st	JFY-1991	October 7, 1991	~	October 31, 1991
2 nd	JFY-1992	October 5, 1992	~	October 30, 1992
3 rd	JFY-1993	October 8, 1993	~	November 12, 1993
4 th	JFY-1994	November 21, 1994	~	December 16, 1994

LIST OF PARTICIPANTS (The First Course, 1991)

No	Name	Country	Sex	Age	Organization and Post	Practical Experience	Academic Background
1	A. K. M Amir Hossain Sarker	Bangladesh	M	36	Dhaka Polytechnic Institute Workshop Super	11 years	BS Engineering (Electrical and Electronics)
2	Salote Senitoto Rabuka	Fiji	F	39	Computer Centre Ministry of Education Principal Education Officer	6 years	Bachelor in Education Math and Education
3	Valady Halasyam Radhakrishnan	India	M	35	Technical Teachers' Training Institute Assistant Professor	6 years	Master in Technical Education
4	Hossain Ramatizadeh	Iran	M	40	Shamsipoor College Lecturer & Head of Computer Department	13 years	Ph D in Electrical Engineering
5	Sung-Chul Kang	Republic of Korea	M	36	Ministry of Communications Deputy Director	1 year	Master in Electronics
6	Hajah Fatimah Binti Ahmad	Malaysia	F	29	Universiti Pertanian Lecturer	7 years	Master of Science in Computer Science
7	Kul Bahadur Basnet	Nepal	M	31	Council for Technical Education & Vocational Training Instructor	1 year	Certificate in Civil Engineering
8	Nasir Ullah Khan	Pakistan	M	46	Directorate of Technical Education Deputy Director	3 years	B E in Electrical Engineering
9	Mary Kama	Papua New Guinea	F	31	Lae Technical College Teacher	1 year	Diploma in Education
10	Manolo Segura Santos	Philippines	M	27	Meralco Foundation Institute	4 years	Electronics Technology
11	Kannappa Jynkaran	Singapore	M	45	Ngee Ann Polytechnic Lecturer	11 years	Ph D in Mechanical Engineering
12	U.K.D Sugathadasa	Sri Lanka	M	41	National Technical Training College Senior Instructor	7 years	Post Graduate Diploma in Computer
13	Sulichai Srimanechai	Thailand	M	37	King Mungkol's Institute of Technology Instructor	7 years	MS in Technical Education Technology

List of Participants (The Second Course, 1992)

No.	Name	Country	Sex	Age	Organization and Post	Practical Experience	Academic Background
1	Aby Syed Md Latiful Haque	Bangladesh	M		Asst Professor, Bangladesh University of Engineering & Technology	Teaching	Bachelor of Science in Engineering
2	Mrs Salote Senitoto Rabuka	Fiji	F	40	Principal Education Officer, Computer Education Centre, Fiji College of Advanced Education	Training teachers in the use of computers and in the development of curriculum	Computer Education
3	Mr Ram Krit Singh	India	M	50	Project Director (I/C), State Project Implementation Unit	Planning and preparation of CBI and CBT program	Bachelor of Science (Engineering)
4	Dra Sunarti	Indonesia	F	44	Staff of Directorate Technical & Vocational Education	Assistant of section head of monitor on economic schools	Social Politics
5	Mr Hossain Rahmatizadeh	Iran	M	41	Lecturer and Head of Computer Dept., Shamsipour College	Teaching and preparing instructional materials on CBT	BS Electrical Engineering
6	Mr Mohamad Fathil Zaki Mohd Taib	Malaysia	M	31	Asst Director TAVED, Ministry of Education	Staff development - planning and training	MSc in Electrical Engineering
7	Mr Purshottam Raj Rasaily	Nepal	M	37	Procurement Officer, Council for Technical Education & Vocational Training	Procurement and inventory of technical & non-technical equipment for the project oriented technical schools	Bachelor in Commerce

No	Name	Country	Sex	Age	Organization and Post	Practical Experience	Academic Background
8	Mr Shaikh Javaid Iqbal	Pakistan	M	47	Associate Professor, National Technical Teachers Training College	Teaching technical teachers and overseeing campus utility services, repair & maintenance work	B Tech in Refrigeration & Air Conditioning
9	Mr Jaime A Blanco	Philippines	M	31	Clerk II, BTVE-Department of Education, Culture & Sports	Curriculum development, design and enrichment	Bachelor of Science in Civil Engineering
10	Mr Teo Pui Sing	Singapore	M	40	Media Development Officer, ITE	Developing video-based and computer-based training courseware	Electronics Engineering
11	Mr Amaradasa Hegoda	Sri Lanka	M	51	Lecturer in Management Grade 1 & Vice Principal, NITTC	Implementation of instructional design on computer	B Sc Special in Business Administration
12	Mr Mongkol Wangsatitwong	Thailand	M	36	King Mongkut's Institute of Technology North Bangkok	Teaching and training technical teachers	MS Tech Ed in Electrical Engineering



JICA

COLOMBO PLAN STAFF COLLEGE FOR TECHNICIAN EDUCATION
Manila, Philippines

In Collaboration With

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
(JICA)

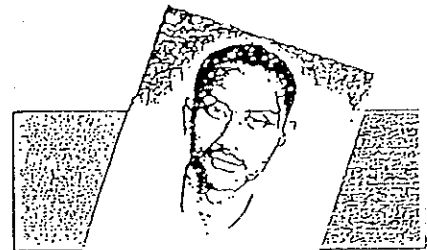
SPECIAL COURSE ON
COMPUTER-BASED INSTRUCTIONAL MATERIALS DEVELOPMENT
18 October - 12 November 1993
Manila, Philippines
(The Third Course, 1993)

COURSE DIRECTORY

I. PARTICIPANTS

FIJI

MR. VILIMONE BIUSAVU DIRANIVESI
Lecturer
Ministry of Education, Science & Technology
Computer Education Centre
6 Edinburgh Drive, SIA House, Suva, Fiji
Tel # 313250
Residence : Lot 19, Matanisiga Place
Makoi, Suva, Fiji
Tel # 395961



INDIA

DR. SWAPAN BHATTACHARYA
Professor and Head
Department of Science and Engineering
'Technical Teachers' Training Institute
Block FC Sector III
Salt Lake City
Calcutta - 700 India
Tel # 37-4125
Residence : 62, Akhil Mistry Lane
Calcutta - 700 009
Tel # 350-6517



INDONESIA

MR. I WAYAN LINAS
Instructor
Technical Education Development Center
TEDC Bandung - Indonesia
Jl. Pasantren Km 2 Cimahi Indonesia
Tel # (022) 652326
Residence : Jl. Mekar Hurip 19 Bandung
Indonesia
Tel # (022) 637401



IRAN

MR. SHAHRYAR ZAFARPOOR
Head of Computer Department
Technical Teacher Training
Faculty Lavizan-Tehran, Iran
Tel # 246028-9
Fax # 245040
Residence : No.-136 Misagh 1 Shahrak
Jandarmery Aryashahr
Tehran, Iran
Tel # 979093



KOREA

MR. POM-YOUNG YI
Teacher
Youido Junior High School
Youido-dong, Young-deung po-Gu
Seoul, Korea
Tel # 782-0801, 780-0306
Fax # 786-7597
Residence :
Tel # 809-6678, 895-3447



PAKISTAN

MR. MOIN UDDIN QURESHI
Director Curriculum
Institute for the Promotion of Science
Education and Training
Ministry of Education
Islamabad, Pakistan
Tel # 856608
Residence : 3C, F-7/1 Bhitai Road
Islamabad, Pakistan
Tel # 821890



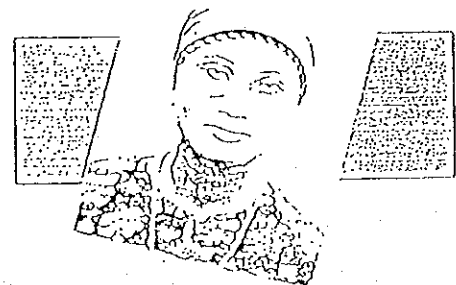
PHILIPPINES

MR. ARNOLD M. PADULLO
Education Program Specialist II
DECS-BTVE, 3/F Mabini Bldg.
UL Complex, Meralco Ave., Pasig
Metro Manila, Philippines 1600
Tel # 6321361 to 70 loc. 2089
Residence : 221st PNP Compound
Hilltop, Taytay, Rizal
Philippines 1920



SINGAPORE

MS. SURIYA SHUKOR
Lecturer
Temasek Polytechnic
Grange Road Campus 51
Grange Road S (1024), Singapore
Tel # (65) 7316157
Fax # (65) 2357832
Residence : Block 528 Bukit Batok St. 51
#04-58 S (2365)
Tel # (65) 5669071



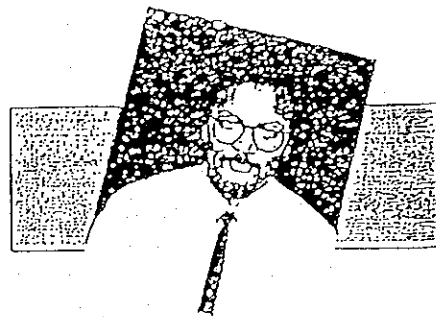
MALAYSIA

MR. RAHMAT BIN JAMIL
Assistant Director
Computer in Education Unit
142 Jalan Hang Jebat
50150 Kuala Lumpur
Tel # 03-2303055
Fax # 03-2385807
Residence : 19 Jalan SS14/6M
Subang Jaya, 475000 P-J
Malaysia
Tel # 03-7341480



NEPAL

MR. RAJU BAJRACHARYA
Mechanical Instructor
Council for Technical Education
and Vocational Training
Balaju Technical Training Centre
Balaju, Kathmandu, Nepal
Tel # 225828, 272228
Residence : Jhwabahal, 27 Ward,
CHA2-551, Kathmandu-3
Nepal
Tel # 225691



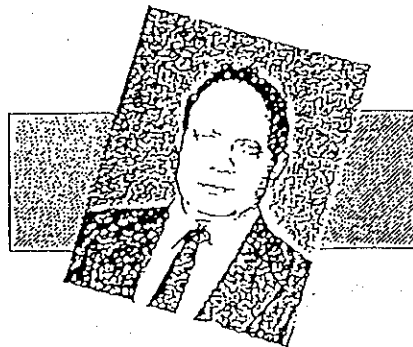
PAPUA NEW GUINEA

MS. STELLINA SERGIUS
Senior Subject Mistress
Port Moresby Business College
P.O. Box 5675, Boroko
Papua New Guinea
Tel # 252233
Residence : Section 87, Lot 1
Miki Street Gordon



SRI LANKA

MR. MIHINDU PARAKRAMA BALASURIYA
Lecturer
National Tech'l Teacher Trng. College
100, Kandawela Road, Ratmalana
Sri Lanka
Tel # 624405/06
Residence : 7/2 Hospital Road
Kalubovila Dehiwela
Sri Lanka
Tel # 826656



THAILAND

MRS. SUYANEE DEJTHONGPONG
Instructor
Rajamangala Institute of Technology
Bangkok Technical Campus
2 Naing Un Chee Rd., Tungmahamek
Yannawa, Bangkok, Thailand
Tel # 2873991-25 ext 118
Fax # 2863596
Residence : 92/368 Taweasuk Vill.
S01 13 Sukhapiban 2 Rd.
Bangapi, Bangkok, Thailand
Tel # 3748258



COLOMBO PLAN STAFF COLLEGE FOR TECHNICIAN EDUCATION

Manila, Philippines

(The Fourth Course, 1994)

A Special Course on

COMPUTER-BASED INSTRUCTIONAL MATERIALS DEVELOPMENT

In Cooperation with Japan International Cooperation Agency (JICA)

21 November - 16 December 1994

CPSC, Manila

LIST OF PARTICIPANTS

BANGLADESH

1. MR MD SHAHAB UDDIN

Operation Officer

Public Admin. Computer Centre

Ministry of Establishment Bangladesh Secretariat

Dhaka 1000, Bangladesh

Tel #: 880-02-241114

Fax #: 880-02-833974

FIJI

2. MR SANJAY VISHWA NATH SINGH

Assistant Lecturer (Electronics Eng'g)

P O Box 1576 Lautoka

Fiji Island

Tel #: 664533

INDIA

3. PROF SHYAMAL MAJUMDAR

Assistant Professor

Computer Science and Eng'g Dept

Technical Teachers' Training Institute

Block FC, Sector-3

Calcutta - 700 091

Tel #: (033) 2476430

INDONESIA

4. DRS ABNER SITIO

Instructor

Bandung Technical Education Dev't Centre

Pusat Pengembangan Penalaran Guru Teknolol

(PPP-G, Teknologi) Bandung

P O Box 1317 Cimahi 46513 - Bandung

Tel #: (022) 652326

Fax #: (022) 654648

IRAN

5. **MR NASER MAZAHERIAN**
Head
Statistics and Computer Department
Shiraz Technical Institute
P O Box 71365-338
I R Iran, Shiraz
Tel #: 071-40485
Fax #: 071-20609

KOREA

6. **MR SEONG-UK OH**
Instructor
Skill Development Department
Korea Manpower Agency
#370-4 Kongduk-dong, Mapo-ku
Seoul, Republic of Korea
Tel #: 718-7256
Fax #: 718-6971

MALAYSIA

7. **MR SOFIAN AZMI B TAJULARUS**
Head of Electronic Media Unit
Curriculum Development Centre
Ministry of Education Malaysia
Perislaran Duta, 50604 Kuala Lumpur
Malaysia
Tel #: 03-2541522
Fax #: 03-2541861
8. **MR MOHD ROAHIMI B YUSOF**
Lecturer
Mechanical Engineering Department
Kota Bharu Polytechnic
16450 Kelereh, Kelantan, Malaysia
Tel #: 09-978344
Fax #: 09-978739
9. **MR HASAN B EBAU NOI @ ABDUL RAHMAN**
Education Officer
Perlis State Education Department
01990 Kangar, Perlis, Malaysia
Tel #: 04-9671177

Participated by
their own expenses.

MYANMAR

10. U MYINT AUNG

Principal
Government Technical Institute
Pyay, Bago Division, Myanmar
Tel #: 053-21107

NEPAL

11. MR DEEPAK NEPALI

Instructor
Lahan Technical School
Nepal

PAKISTAN

12. MR ABID HUSSAIN KALWAR

Instructor, Computer Programming
National Technical Teachers Training College
H-8 Islamabad, Pakistan
Tel #: 857672
Fax #: (92) (051) 858997

PAPUA NEW GUINEA

13. MR MADAKO SUARI

Superintendent Curriculum
Curriculum Development Division, Education Dept
PSA Haus, PO Box 446, Waigani, NDC
Papua New Guinea
Tel #: 0011-675-246404
Fax #: 0011-675-255902

PHILIPPINES

14. MR ROMARICO A LOREMIA

Assistant Professor II
Cebu State College of Science and Technology, Main Campus
M.J. Cuenco Ave., Cebu City
Tel #: 72131

SINGAPORE

15. MS CHAO, YUNN CHYI

Lecturer
Math/Science Department
500 Dover Road
Singapore 0513
Tel #: 7721480

SRI LANKA

16. MR K W WINNIE

Lecturer in Mathematics
Technical College
Galle, Sri Lanka

THAILAND

17. MR SUCHART SUNTHORNWATANASIRI

Instructor
Bangkok Technical Campus
Rajamangala Institute of Technology
2 Nang Linsee Road, Thunk Mahamek
Yannawa, Bangkok 10120, Thailand
Tel #: 2873211-25 ext 123; 143

11/14/94 abm

Statement of expenditures
(in Pesos)

ANNEX II

	1991			1992			1993		
	Contribution by CPSC	Contribution by JICA	Total	Contribution by CPSC	Contribution by JICA	Total	Contribution by CPSC	Contribution by JICA	Total
1. Invitation expenses									
(1) Air tickets	-	-	-	12,366.00	237,303.00	249,669.00	31,836.00	378,368.89	410,204.89
(2) Per-diem	172,411.50	155,825.00	328,236.50	56,322.00	147,150.00	203,472.00	78,098.04	170,940.00	249,038.04
(3) Accommodation	-	141,790.00	141,790.00	-	193,896.89	193,896.89	-	320,289.21	320,289.21
(4) Medical Insurance	-	-	-	-	-	-	-	9,120.60	9,120.60
(5) Others	-	-	-	-	-	-	3,580.92	-	3,580.92
2. Training Expenses									
(1) Honoraria	-	200,716.88	200,716.88	-	133,234.60	133,234.60	-	118,930.00	118,930.00
(2) Employment Fee Secretary	-	-	-	11,986.38	5,000.00	16,986.38	344.12	15,201.01	15,545.13
(3) Transportation	-	27,321.60	27,321.60	-	38,908.50	38,908.50	-	34,417.80	34,417.80
(4) Material Procurement	20,870.25	301,880.70	322,750.95	23,829.39	319,247.50	343,076.89	1,133.72	535,996.11	537,129.83
(5) Textbook	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(6) Others	-	9,489.78	9,489.78	399.87	14,094.54	14,494.41	-	14,816.82	14,816.82
3. Miscellaneous									
	2,525.00	45,968.21	48,493.21	-	45,730.89	45,730.89	49,149.24	28,963.40	78,112.64
4. (1) Grand total	195,806.75	882,992.17	1,078,798.92	104,903.64	1,134,565.92	1,239,469.56	164,142.04	1,627,043.84	1,791,185.88
(2) Unit cost/ person / month	15,062.06	67,922.47	82,984.53	8,741.97	94,547.16	103,289.13	12,626.31	125,157.22	137,783.53

Statement of expenditures
(in Pesos)

	Grand Total		
	Contribution by CPSC	Contribution by JICA	Total
1. Invitation expenses			
(1) Air tickets	44,202.00	615,671.89	659,873.89
(2) Per-diem	306,831.54	473,915.00	780,746.54
(3) Accommodation	-	653,976.10	653,976.10
(4) Medical Insurance		9,120.60	9,120.60
(5) Others	3,580.92	-	3,580.92
2. Training Expenses			
(1) Honoraria	-	452,881.48	452,881.48
(2) Employment Fee Secretary	12,330.50	20,201.01	32,531.51
(3) Transportation	-	100,647.90	100,647.90
(4) Material Procurement	45,833.36	1,157,124.31	1,202,957.67
(5) Textbook	399.87	38,401.14	38,801.01
(6) Others			
3. Miscellaneous	51,674.24	120,662.50	172,336.74
4. (1) Grand total	464,852.43	3,644,601.93	4,109,454.36
(2) Unit cost/ person / month	35,757.88	303,716.83	316,111.87

STATEMENT OF JICA EXPENDITURES
THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAM ON
COMPUTER-BASED INSTRUCTIONAL MATERIALS DEVELOPMENT
(in Pesos)

BUDGET ITEM	1991			1992			1993		
	JICA BUDGET	ACTUAL EXPENSES	VARIANCE OVER(UNDER)	JICA BUDGET	ACTUAL EXPENSES	VARIANCE OVER(UNDER)	JICA BUDGET	ACTUAL EXPENSES	VARIANCE OVER(UNDER)
AIRFARE	0.00	0.00	0.00	237,303.00	237,303.00	0.00	555,582.00	378,368.89	177,213.11
PER DIEM	195,000.00	155,825.00	39,175.00	195,000.00	147,150.00	47,850.00	203,000.00	170,940.00	32,060.00
ACCOMMODATION	218,400.00	141,790.00	76,610.00	234,000.00	193,896.89	40,103.11	345,100.00	320,289.21	24,810.79
INSURANCE	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	56,000.00	9,120.60	46,879.40
MATERIALS PROCUREMENT	300,170.00	301,880.70	(1,710.70)	315,670.00	319,247.50	(3,577.50)	560,110.00	535,996.11	24,113.89
HONORARIUM	84,000.00	200,716.88	(116,716.88)	100,000.00	133,234.60	(33,234.60)	120,000.00	118,930.00	1,070.00
COMMUNICATIONS	15,000.00	9,489.78	5,510.22	18,000.00	14,094.54	3,905.46	18,000.00	14,816.82	3,183.18
TRANSPORTATION	50,000.00	27,321.60	22,678.40	50,000.00	38,908.50	11,091.50	50,000.00	34,417.80	15,582.20
MEETING EXPENSES	31,500.00	45,968.21	(14,468.21)	31,500.00	45,730.89	(14,230.89)	45,000.00	28,963.40	16,036.60
SECRETARIAL SERVICE	0.00	0.00	0.00	5,000.00	5,000.00	0.00	5,000.00	15,201.01	(10,201.01)
	894,070.00	862,992.17	11,077.83	1,186,473.00	1,134,565.92	51,907.08	1,957,792.00	1,627,043.84	330,748.16

STATEMENT OF CPSC EXPENDITURES
 THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAM ON
 COMPUTER-BASED INSTRUCTIONAL MATERIALS DEVELOPMENT
 (in Pesos)

1991

Toner for copier	14,814.75
Bond paper	6,055.50
Lunch at Taal Vista Lodge	2,525.00
Per diem-Dr. Terry Lane	172,411.50

	195,806.75
	=====

1992

Per diem-Mr. Edward Ming	56,322.00
Airfare-Mr. Edward Ming	12,366.00
Printing Expenses	2,912.49
Repair of computers	20,916.90
Fax/telex	399.87
Overtime-support staff	11,436.39
Taxifares/meal allowance in fetching participants	549.99

	104,903.64
	=====

1993

Lunch and snacks for participants	48,326.04
Welcome tea for Prof. Hayashi	278.60
Utility supplies	102.48
Reproduction expenses	442.12
Office supplies	1,133.72
Airport fees-participants	3,580.92
Add'l honorarium/per diem-Mr. Edward Ming and Ms. Meena Kumari	78,098.04
Airfare-Mr. Edward Ming	12,740.00
Airfare-Ms. Meena Kumari	19,096.00
Taxifares in fetching participants	344.12

	164,142.04
	=====

LIST OF JICA LONG-TERM EXPERT

NAME	SUBJECT	DURATION
Takashi Uematsu	Computer Based Instructional Materials and Development	Apr.13,1990 ~ present

LIST OF JICA SHORT-TERM EXPERTS

JFY	NAME	SUBJECT	DURATION
1992	Ken Ishikawa	Computer Literacy Training	Sep.25 - Oct.20, 1992
1993	Tokuji Hayashi Haruhiko Nishimura	Development of Computer Based Multimedia Instructional Systems	Oct.21 - Nov. 4, 1993 Oct.12, - Oct.31, 1993
1994	Tokuji Hayashi Hitoshi Miyata Ryoya Makino	Development of Computer Based Multimedia Instructional Systems	Nov.21 - Dec.12, 1994 Dec. 3, - Dec.18, 1994 Nov.15 - Dec.12, 1993

LIST OF EQUIPMENT BROUGHT BY JICA EXPERTS

JFY	ITEMS
1992	IBM PS/55 Note Model 5523-SV8 4 Megabytes Ram Card Mini Mouse 85 Megabytes Hard Disk Modem 2400 bps
1993	M-0 Drive 500 Megabytes Hard Disk Drive
1994	Still Video Camera V.C.R. (Multi System)

ACCEPTED COUNTERPART PERSONNELS

JFY	NAME	SUBJECT	DURATION
1993	Eric Zulaybar	Material Development with Multimedia	Mar.28,1993- Jun.27, 1994

LIST OF LECTURERS ASSIGNED BY CPSC

JFY	NAME	SUBJECT	ORGANIZATION
1991	Dr. Terry Lane	All subjects of the Course	faculty member of CPSC (Australia)
1992	Mr. Emerito V Tipa	Introduction to PC Pilot and PROPI	Local Instructor Computer Based Systems Statistics Training Center
	Mr. Edward Ming	Hands on Exercises on the use of PROPI	Visiting Specialist Temasek Polytechnic (Singapore)
1993	Prof. Meena Kumari Srinthar	Development of Computer Based Multimedia Instructional Systems	Assistant Professor Technical Teachers' Training Institute. (India)
	Mr. Edward Ming	Hands on Exercises on the use of PROPI	Visiting Specialist Temasek Polytechnic (Singapore)
1994	Prof. M. Radhakrishna	General Information on CAI Authorware Professional and Action	Professor Technical Teachers' Training Institute (India)
	Prof. Meena Kumari Srinthar	Hands on Exercises of Authorware	Professor Technical Teachers Training Institute (India)
	Prof. Jiro Yoshio	Design of T/L Resource Materials Demonstration	Professor Tokyo Gakugeidai Univ. (Japan)
	Mr. Yoshio Saito	Assistant of the lecturers	Graduate School Tokyo Gakugeidai Univ.
	Mr. Pradit Thammatat	Assistant of the lecturers	Instructor Sakonnakhon Rajabhat Institute (Thailand)

LIST OF PRINTED T/L MATERIALS FOR THIRD COUNTRY TRAINING
PROGRAMME

1992

1. **Learning about Computer Mechanisms Based on Micro-operations**
Notes for Individual Learning
by Ken Ishikawa
2. **Instructional Uses of Computing Technologies**
by Ken Ishikawa
3. **Computing Curricula, 1991**
Report of the ACM/IEEE-CS Joint Curriculum Task Force
4. **Information Technologies in Education**
The quest for quality software,
OCED

1993

1. **Exercises for Authorware**
by M. Radhakrishna
2. **Computer Education for In-service Training of Teachers**
by Tokuji Hayashi
3. **Discrepancy between the Images and Expectations of Students and Teachers with Respect to Information Basis**
by Tokuji Hayashi, Hiroataka Oki
4. **View of Multimedia**
by H. Nishimura
5. **Let's try Multimedia**
by Tokuji Hayashi
6. **What is Multimedia?**
by Tokuji Hayashi

1994

1. **What is Multimedia?**
by Tokuji Hayashi
2. **Let's try Multimedia**
by Tokuji Hayashi
3. **Introduction to the CAI Material by Authorware Professional**
by Tokuji Hayashi, Hitoshi Miyata, Ryoya Makino, Pradit Thammatat

RESULTS OF THE QUESTIONNAIRES TO THE
EX-PARTICIPANTS OF THE RESPECTIVE COURSE

1. COURSE NEEDS

(1) Do you think the course is useful for your country considering the present situation of this field ?

	1991	1992	1993	total
(1) Useful	1	4	3	8 (80%)
(2) Too Advanced			1	1 (10%)
(3) Too elementary				
(4) Not met	1			1 (10%)
(5) Others				

(2) Do you hope to attend another training at an advanced level in the future ?

	1991	1992	1993	total
(1) Yes	1	4	4	9 (90%)
(2) No				
(3) No reply	1			1 (10%)

2. OBJECTIVES

(1) What was your main purpose of attending the Course ?
(Plural Answer Question)

	1991	1992	1993	total
(1) to acquire the knowledge and skills required to design and develop computer based instructional materials	1	1	3	5 (36%)
(2) to study the specific techniques and methods to produce or oversee the production of computer based instructional materials		2	1	3 (21%)

	1991	1992	1993	1994
(3) to exchange views with participants from other countries	1	1	3	5 (36%)
(4) to go abroad				
(5) Others		1		1 (7%)
To introduce new techniques and methods to his/her country (2nd course)				

3. ATTAINMENT

(1) To what extent did you acquire new knowledge through the Course ?

	1991	1992	1993	total
(1) Very Much	1	2	2	5 (50%)
(2) Quite Much	1	2	1	4 (40%)
(3) Somewhat Much			1	1 (10%)
(4) Somewhat Little				
(5) Not at all				
(6) No reply				

(2) To what extent did you improve your techniques through the Course ?

	1991	1992	1993	total
(1) Very Much		2	2	4 (40%)
(2) Quite Much	1	2	1	4 (40%)
(3) Somewhat Much	1		1	2 (20%)
(4) Somewhat Little				
(5) Not at all				
(6) No reply				

(3) To what extent did you change your attitude/or way of thinking towards your duties through the Course ?

	1991	1992	1993	total
(1) Very Much		1	2	3 (30%)
(2) Quite Much	2	2	1	5 (50%)
(3) Somewhat Much			1	1 (10%)
(4) Somewhat Little		1		1 (10%)
(5) Not at all				
(6) No reply				

4. UTILIZATION AND SPREAD

(1) To what extent did you utilize the knowledge, techniques and experience acquired during the course in your job ?

	1991	1992	1993	1994
(1) Very Much	1	1	2	4 (40%)
(2) Quite Much		2		2 (20%)
(3) Somewhat Much		1		1 (10%)
(4) Somewhat Little			1	1 (10%)
(5) Not at all	1		1	2 (20%)
(6) No reply				

(2) How did you utilize the knowledge, techniques and experience you acquired during the course in your own job ?

(Plural Answer Question)

	1991	1992	1993	total
(1) Developing computer based instructional materials	2	2	3	7 (58%)
(2) Solving technical Problems				
(3) Imparting to others	1		1	2 (17%)

(4) Others			1	1 (8%)
(5) No Reply		1	1	2 (17%)
(1) Conducting Seminar/training course for technician teachers (1st Course)				
(2) Planning project on computer based instruction (2nd Course)				

(3) To what extent did you spread the knowledge, techniques and experience acquired in the course ?

	1991	1992	1993	total
(1) Very Much		1	1	2 (20%)
(2) Quite Much	1	2	2	5 (50%)
(3) Somewhat Much				
(4) Somewhat Little		1	1	2 (20%)
(5) Not at all	1			1 (10%)
(6) No reply				

(4) How did you spread the knowledge and techniques acquired in the Course ? (Plural Answer Question)

	1991	1992	1993	total
(1) Informing Colleagues	1	2	3	6 (33%)
(2) Giving Lectures		3	3	6 (33%)
(3) Giving Training Course and Seminar	1	1	2	4 (22%)
(4) Producing publication			1	1 (6%)
(5) Others			1	1 (6%)
(1) Organizing Computer Based Instruction section in the department (3rd Course)				

CPSC's Requests to JICA

The Colombo Plan Staff College for Technician Education is most grateful to the Government of Japan through the Japan International Cooperation Agency for the excellent support that it had continuously received through the 21 years of its existence as the only regional organization that constantly addresses technical and vocational education issues in the Asia-Pacific region. The significant contribution of Japan is very much appreciated by the member countries that look up to Japan as a role model in technological and industrial development, a field where technicians play an important role.

With the ongoing implementation of the CPSC Medium-Term Corporate Plan, the College is consistently exploring effective ways by which it can facilitate technology transfer and promote *South-South Cooperation* among countries in the region. The demands for human resources development along the emerging thrusts are the area of technical and vocational education and training such as computer application, environmental education, women in development and other global concerns are increasing. To cope up with the challenges and the pace of change and development, resources in the region have to be maximized in the most effective and economical ways possible. This process acquired added importance in view of current developments in APEC and GATT. In the light of this, the assistance and cooperation of developed countries like Japan is necessary to achieve mutual gains and economic progress in the whole region.

With these concepts, the College appeals for the kind consideration of JICA for the following requests:

1. Extension for another five years the *Third Country Training Program on Computer-Based Instructional Materials Development*. This will assist the more developed member countries to launch long-term programs and the less developed countries in their national development plans in technical and vocational education and training specifically in the development of computer-based instructional materials. It will also supplement the ongoing projects of member countries with development agencies in the field of education. The extension will further help in the transfer of the much-needed technology for the improvement of technical and vocational education in the member countries as well as for the whole region.

Considering the importance of computer-aided instructions and learning in technical and vocational education, it is further suggested that additional participants from bigger countries and countries with more demands in this area should be accommodated in the course. This will also maximize the expertise of resource persons and the wide use of the JICA-donated computer facilities at the CPSC Computer Training Center.

2. It is also essential that the expertise of an exemplar country like Japan in the field of computer application in education will be shared to member countries to assist them in their efforts to carry out computer-related development activities. With a long-term seconded faculty member with expertise in computer application in education from Japan, the concept of *South-South Cooperation* and technology transfer could be well facilitated at the regional, sub-regional and in-country levels. Institutional capabilities both in CPSC as well as in the member countries will be built up for long-term and greater multiplier effect for sustainable development.
3. In terms of addressing the diversified needs of member countries, it is most desirable that the expertise of Japan in the field of industrial development, TVET management, environmental education and sustainable development and other areas be transferred to member countries through the provision of JICA short-term experts in CPSC for the Third Country Training Program.
4. Technology changes very fast and the College being the leader in human resources development activities in the field of TVET in the region, it is essential that its computer facilities be up-to-date to accommodate the complexities of progress and make TVET institutions more capable to meet the demands of industrial development. This will mean periodic upgrading of computer facilities provided to the College.

In Summary

The member countries will be most benefited with the favorable consideration of the Government of Japan for the extension for another five years of the Third Country Training Program on Computer-Based Instructional Materials Development, provision of one computer expert on long-term secondment, provision of short-term experts in various CPSC courses, assistance in upgrading and procuring computer and instructional equipment and materials.

These requests, we feel, will further the recommendations made by the JICA Evaluation Team.

The College expresses its deep appreciation for the work of the Team for its understanding of CPSC's vision, mission and objectives.

4 加盟国拠出金額一覧 (C P S C アニュアルレポートより)

FINANCIAL STATEMENTS
MEMBER COUNTRY CONTRIBUTIONS FOR
FY 1993-94 (in US Dollars)

COUNTRY	TOTAL BUDGET	
	1993-1994	1992-1993
AUSTRALIA	68,266	62,732
JAPAN	68,266	62,732
UNITED KINGDOM*	--	62,732
CANADA*	--	62,732
INDIA	68,266	64,004
INDONESIA	68,266	64,004
ISLAMIC REPUBLIC OF IRAN	68,266	64,004
REPUBLIC OF KOREA	68,266	64,004
MALAYSIA	68,266	64,004
PHILIPPINES	68,266	64,004
ISLAMIC REPUBLIC OF PAKISTAN	68,266	64,004
SINGAPORE	68,266	64,004
SRI LANKA	68,266	64,004
THAILAND	68,266	64,004
PAPUA NEW GUINEA	34,133	31,999
AFGHANISTAN	5,922	5,535
BANGLADESH	5,922	5,535
BHUTAN	5,922	5,535
MYANMAR	5,922	5,535
FIJI	5,922	5,535
NEPAL	5,922	5,535
TOTAL CONTRIBUTIONS	888,857	956,177
CFTC CONTRIBUTIONS	45,000	80,000
TOTAL	933,857	1,036,177

* withdrew from membership in the Colombo Plan - hence, the College, on 14 November 1991

JICA

